

小牧市地域福祉に関する市民調査
(単純集計結果)

平成 28 年 1 月

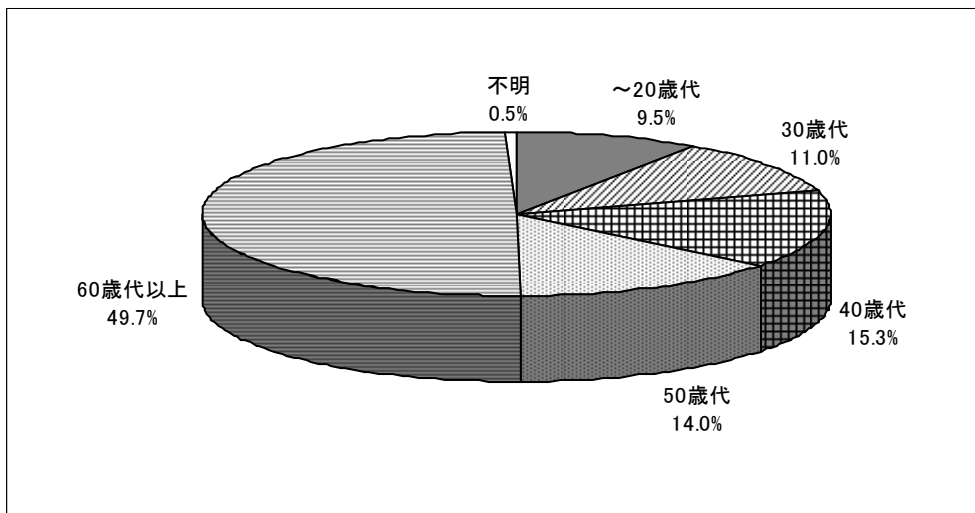
小牧市

市民アンケート

Q1 年齢

回答者の年齢については、約半数が「60歳以上」（49.7%）となっています。その他では、「40歳代」が15.3%、「50歳代」が14.0%となっています。

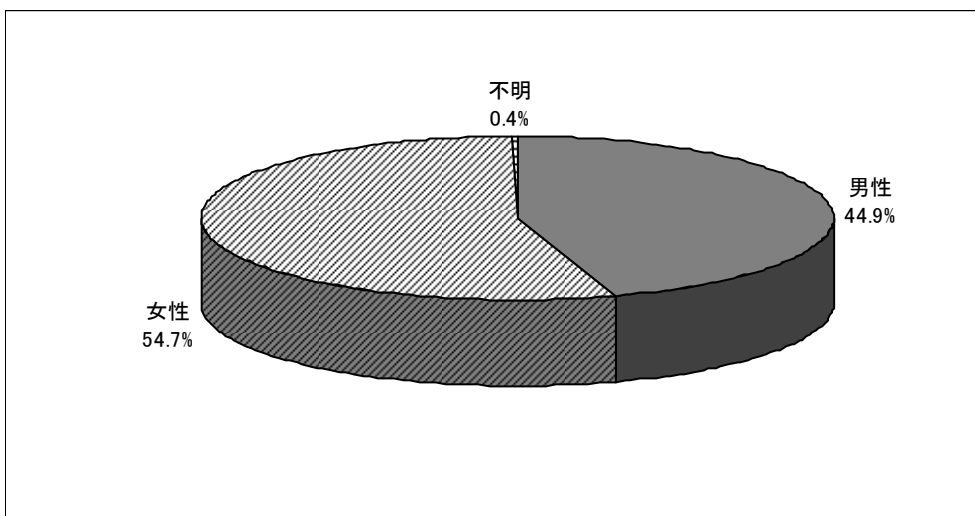
図表－ 1 年齢 (n=1,639)



Q2 性別

回答者の性別については、「男性」が44.9%、「女性」が54.7%となっています。

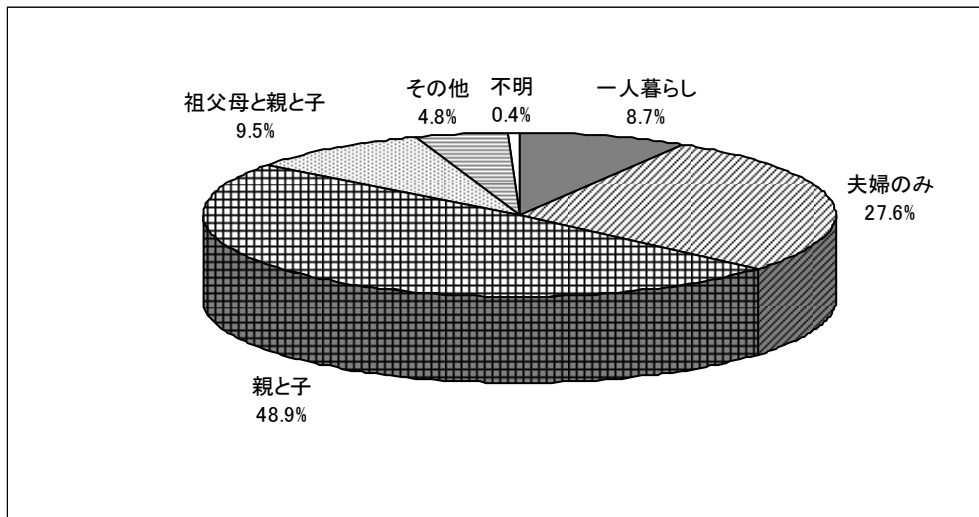
図表－ 2 性別 (n=1,639)



Q3 同居している家族の構成

同居している家族構成については、「親と子」が48.9%と最も高く、次いで「夫婦のみ」(27.6%)、「祖父母と親と子」(9.5%)、「一人暮らし」(8.7%) となっています。

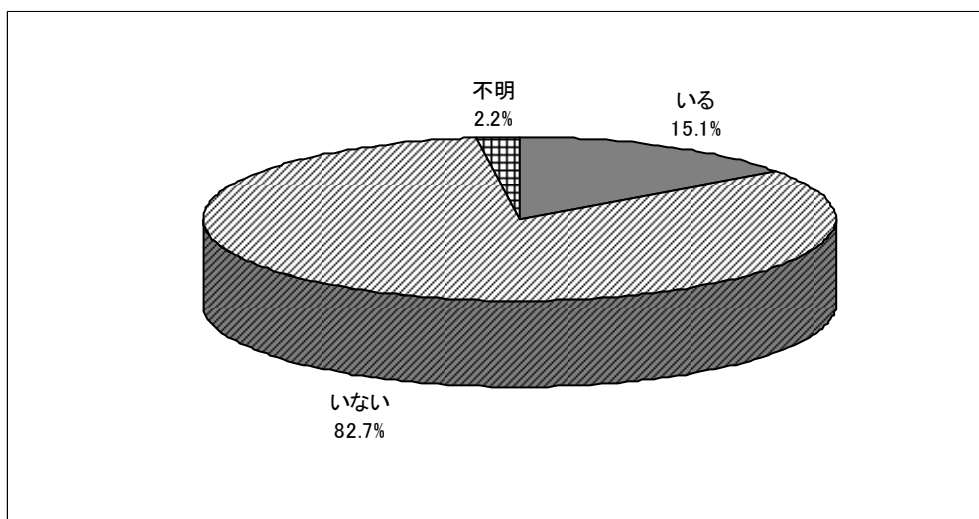
図表－ 3 同居している家族の構成 (n=1,639)



Q4 同居家族内の高齢者または障がいのある人の有無

同居家族内の高齢者または障がいのある人の有無については、「いる」が15.1%、「いない」が82.7%となっています。

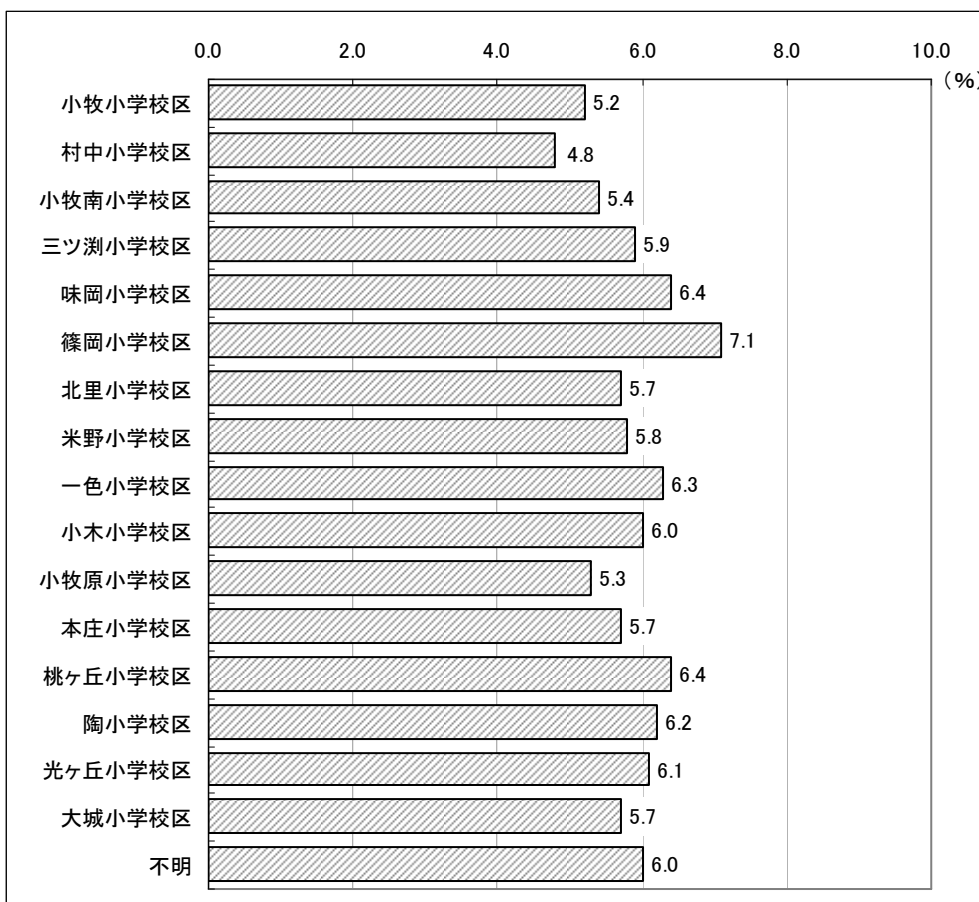
図表－ 4 同居家族内の高齢者または障がいのある人の有無 (n=1,639)



Q5 住まいの小学校区

住まいの小学校区については、おおむねどの小学校区も同様の割合となっていますが、「篠岡小学校区」がやや高くなっています。

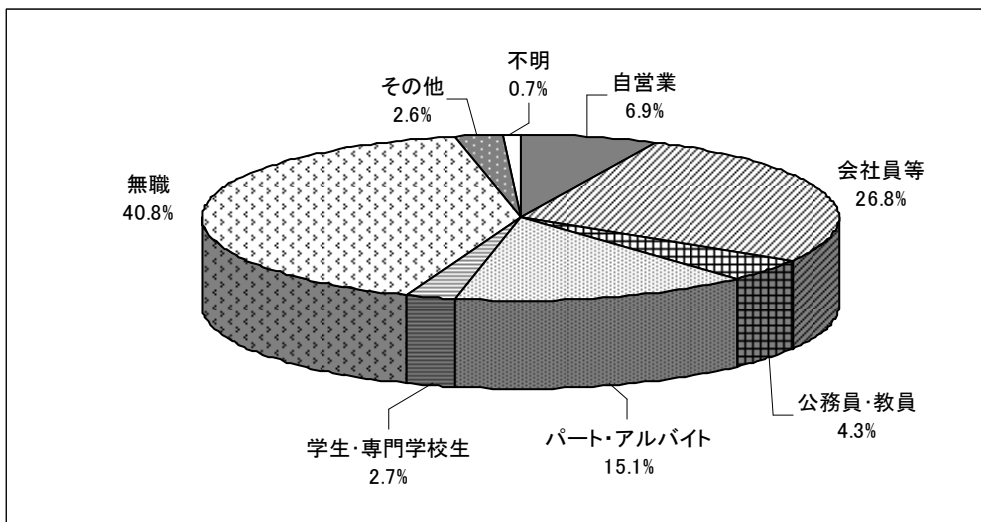
図表－ 5 住まいの小学校区 (n=1,639)



Q6 就業・就学状況

就業・就学の状況については「無職」が40.8%と最も高く、次いで「会社員等」(26.8%)、「パート・アルバイト」(15.1%)となっています。

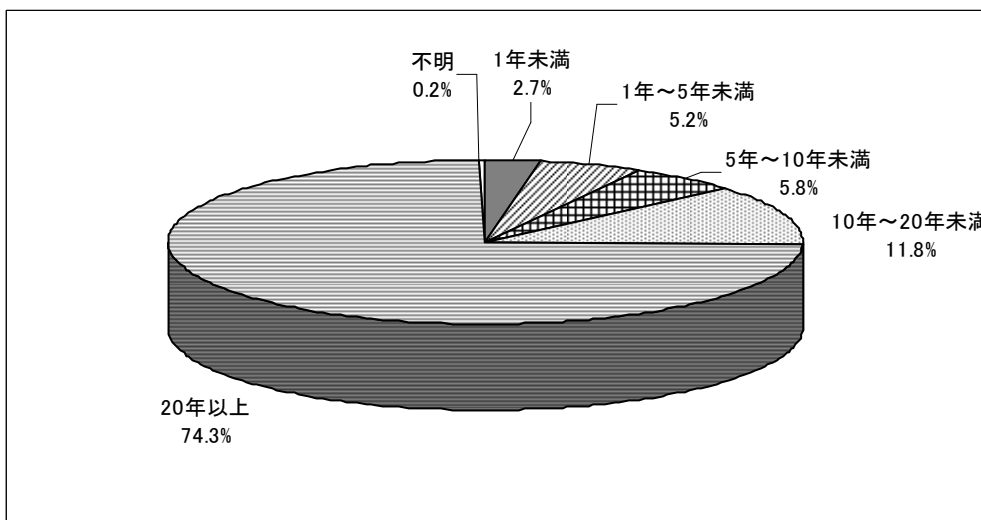
図表－ 6 就業・就学状況 (n=1,639)



Q7 小牧市在住年数

小牧市での在住年数については、大半が「20年以上」(74.3%)となっています。その他では、「10～20年未満」(11.8%)が高くなっています。

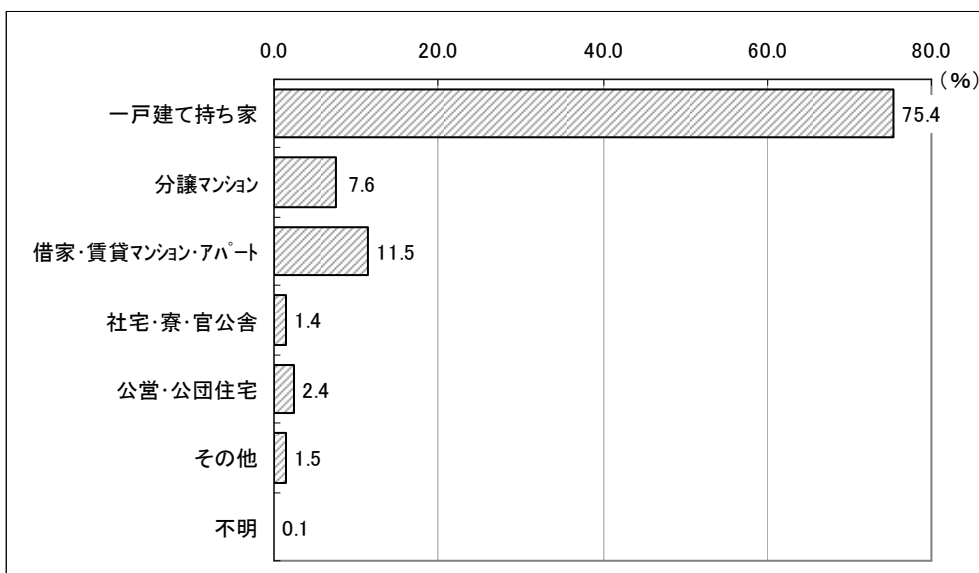
図表－ 7 小牧市在住年数 (n=1,639)



Q8 居住形態

居住形態については、大半が「一戸建て持ち家」(75.4%)となっています。その他では、「借家・賃貸マンション・アパート」(11.5%)、「分譲マンション」(7.6%)が高くなっています。

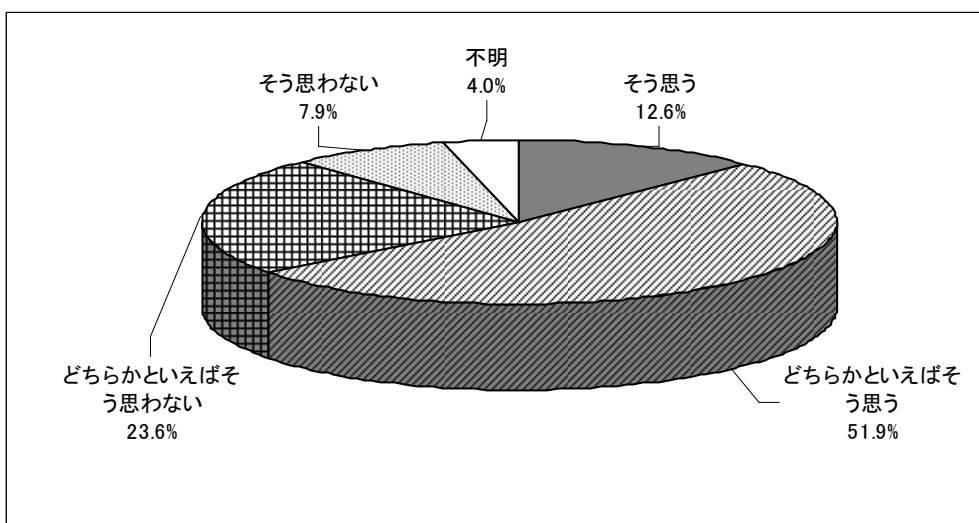
図表－ 8 居住形態 (n=1,639)



Q9 小牧市は地域活動・ボランティア活動が活発なまちだと思うか

小牧市は地域活動・ボランティア活動が活発なまちだと思うかきいたところ、「思う」人が64.5%（「そう思う」(12.6%)と「どちらかといえばそう思う」(51.9%)の合計）、「思わない」が31.5%（「どちらかといえばそう思わない」(23.6%)と「思わない」(7.9%)の合計）となっています。

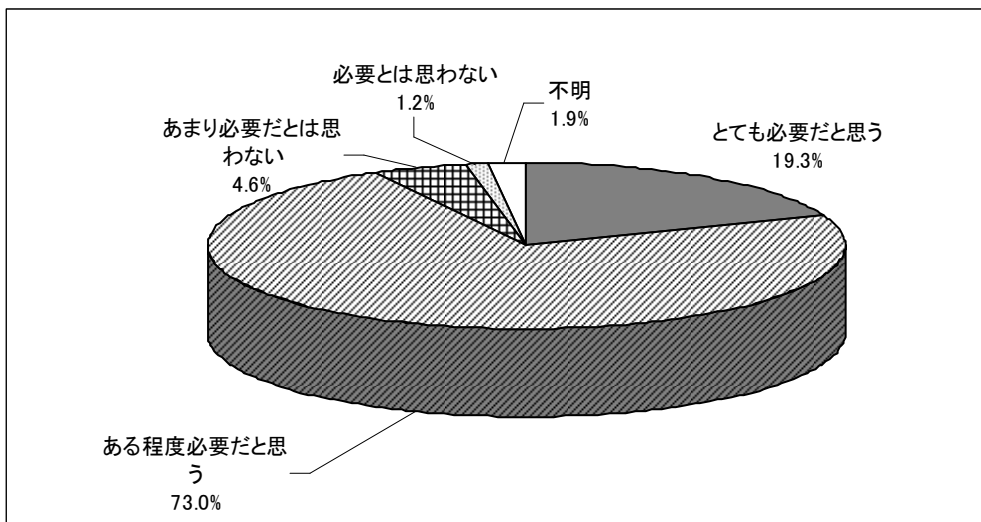
図表－ 9 小牧市は地域活動・ボランティア活動が活発なまちだと思うか (n=1,639)



Q10 住民同士のかかわりについて

住民同士のかかわりについては、「必要だと思う」人が 92.3%（「とても必要だと思う」（19.3%）と「ある程度必要だと思う」（73.0%）の合計）、「必要だと思わない」人が 5.8%（「あまり必要だとは思わない」（4.6%）と「必要とは思わない」（1.2%）の合計）となっています。

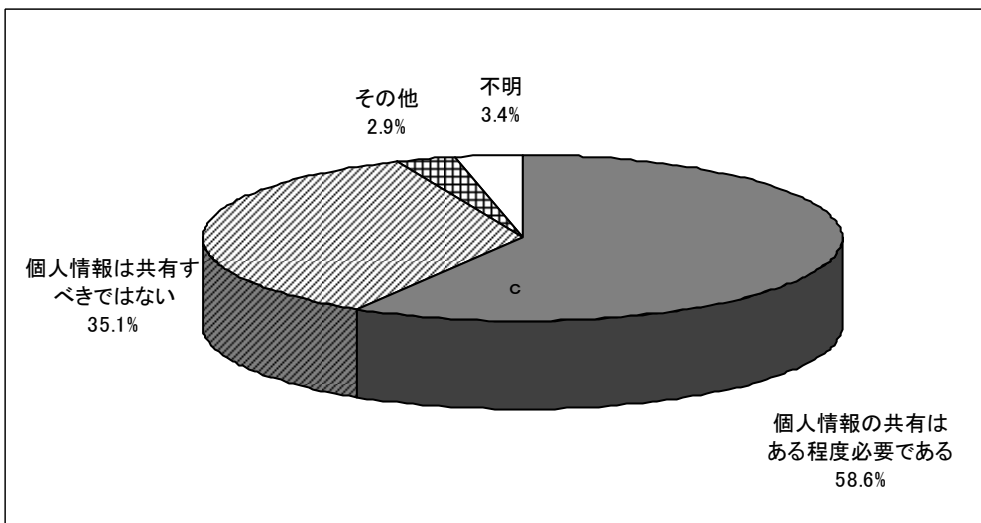
図表－ 10 住民同士のかかわりについて (n=1,639)



Q11 住民同士の支え合いのための個人情報の取扱いについて

住民同士の支え合いのための個人情報の取扱いについてきいたところ、「個人情報の共有はある程度必要である」が 58.6%、「個人情報は共有すべきではない」が 35.1%となっています。

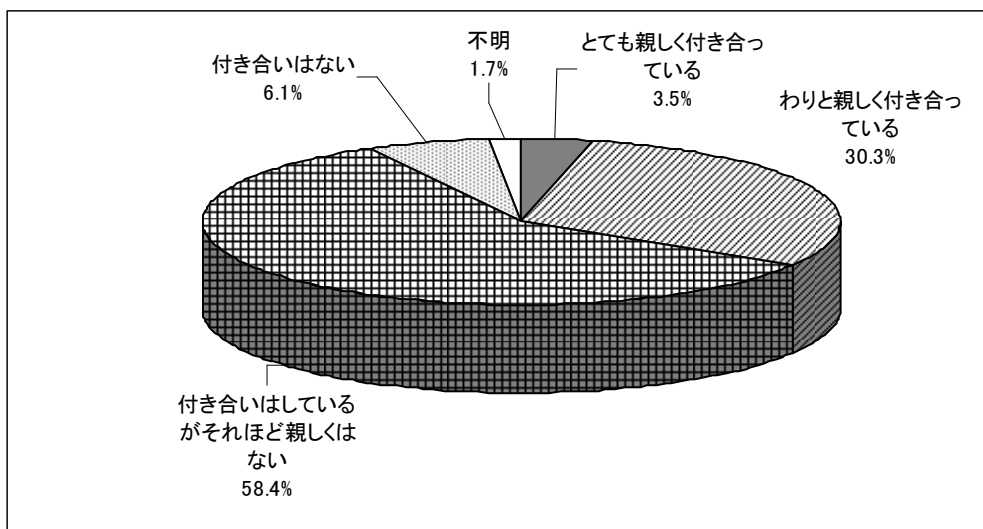
図表－ 11 住民同士の支え合いのための個人情報の取扱いについて (n=1,639)



Q12 近所付き合いの程度

近所付き合いの程度についてきいたところ、「比較的親しく付き合っている」人が33.8%（「とても親しく付き合っている」(3.5%)と「わりと親しく付き合っている」(30.3%)の合計)、「比較的付き合いをしていない」人が64.5%（「付き合いはしているがそれほど親しくはない」(58.4%)と「付き合いはない」(6.1%)の合計)となっています。

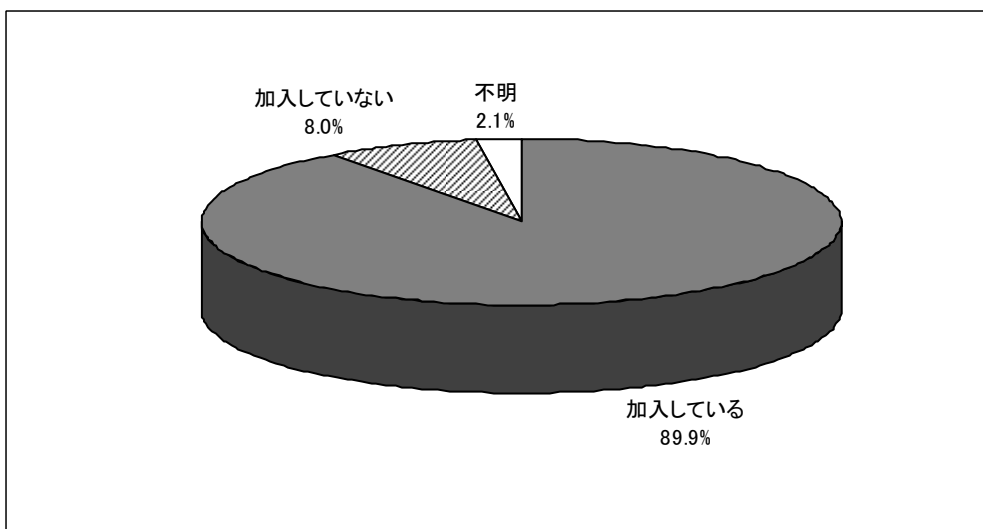
図表－ 12 近所付き合いの程度 (n=1,639)



Q13 自治会への加入有無

自治会への加入の有無については、大半が「加入している」(89.9%)としている一方で、「加入していない」人が8.0%います。

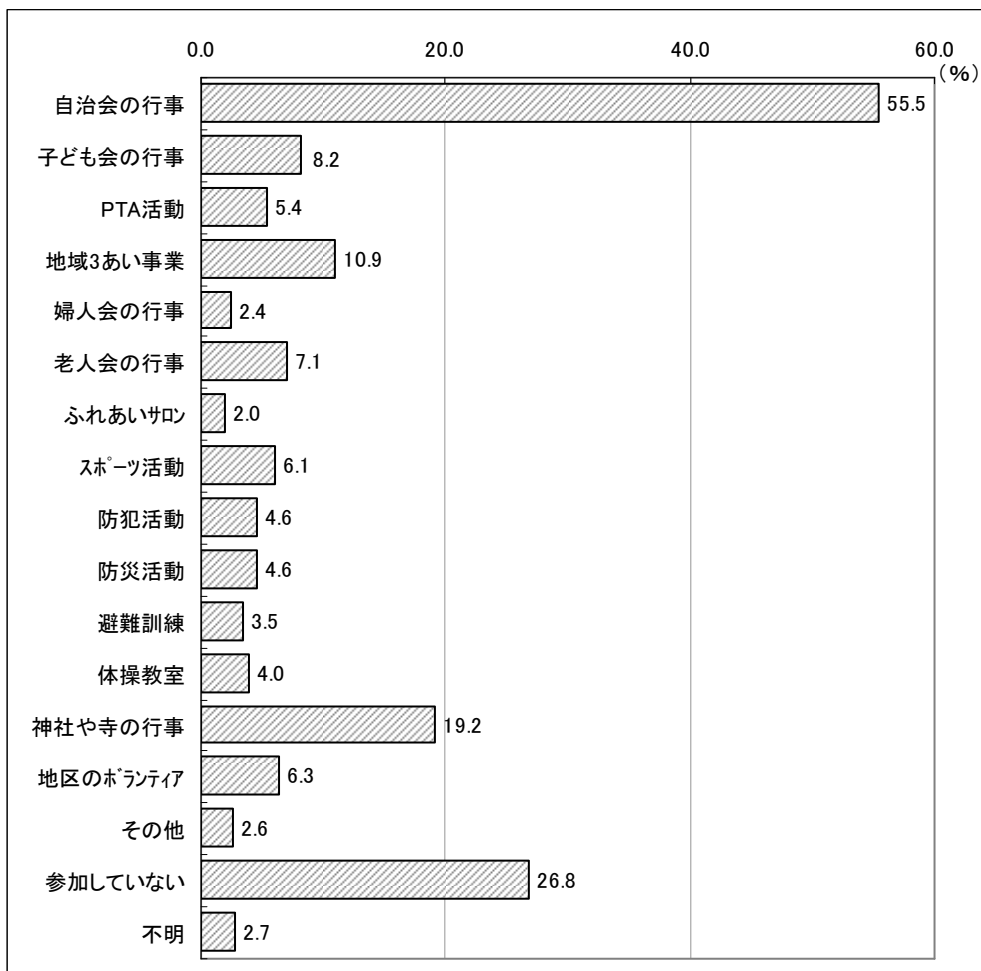
図表－ 13 自治会への加入有無 (n=1,639)



Q14 参加している地域の活動・行事内容

参加している地域の活動・行事内容についてきいたところ、「自治会の行事」が55.5%と最も高く、次いで「神社や寺の行事」(19.2%)、「地域3あい事業」(10.9%)となっています。一方、「参加していない」人も26.8%います。

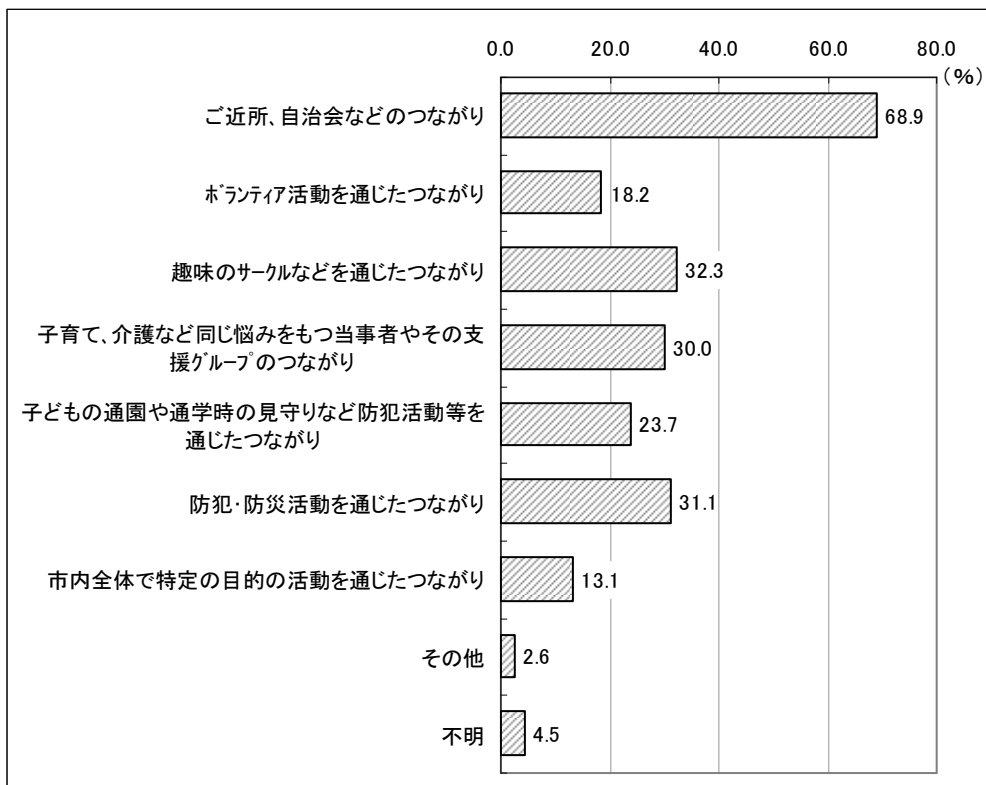
図表－ 14 参加している地域の活動・行事内容(複数回答) (n=1,639)



Q15 新たな支え合いの関係を築くために必要なつながり

新たな支え合いの関係を築くために必要なつながりについてきいたところ、「ご近所、自治会などのつながり」が68.9%と最も高く、次いで「趣味のサークルなどを通じたつながり」(32.3%)、「防犯・防災活動を通じたつながり」(31.1%)、「子育て、介護など同じ悩みをもつ当事者やその支援グループのつながり」(30.0%)となっています。

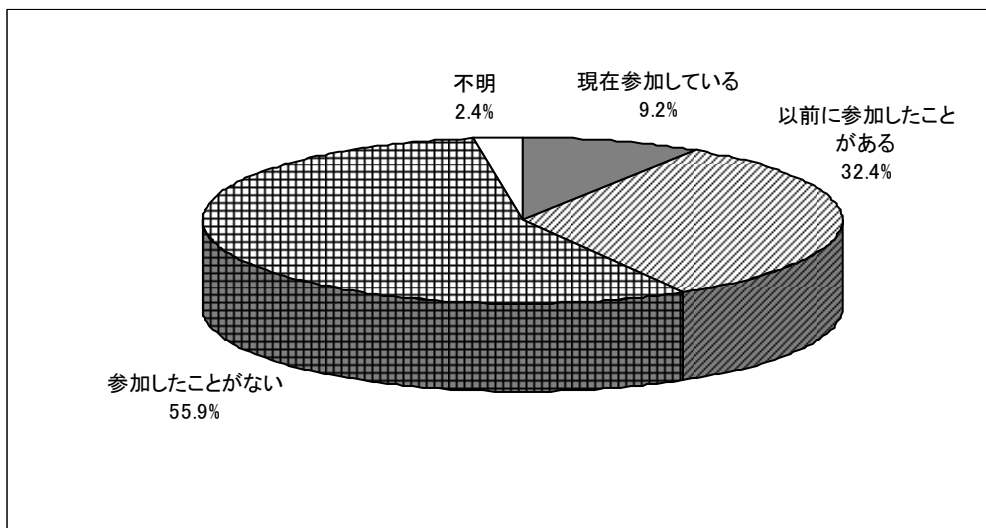
図表ー 15 新たな支え合いの関係を築くために必要なつながり(複数回答) (n=1,639)



Q16 ボランティア活動への参加経験

ボランティア活動への参加経験についてきいたところ、「現在参加している」が 9.2%、「以前参加したことがある」が 32.4%、「参加したことがない」が 55.9%となっています。

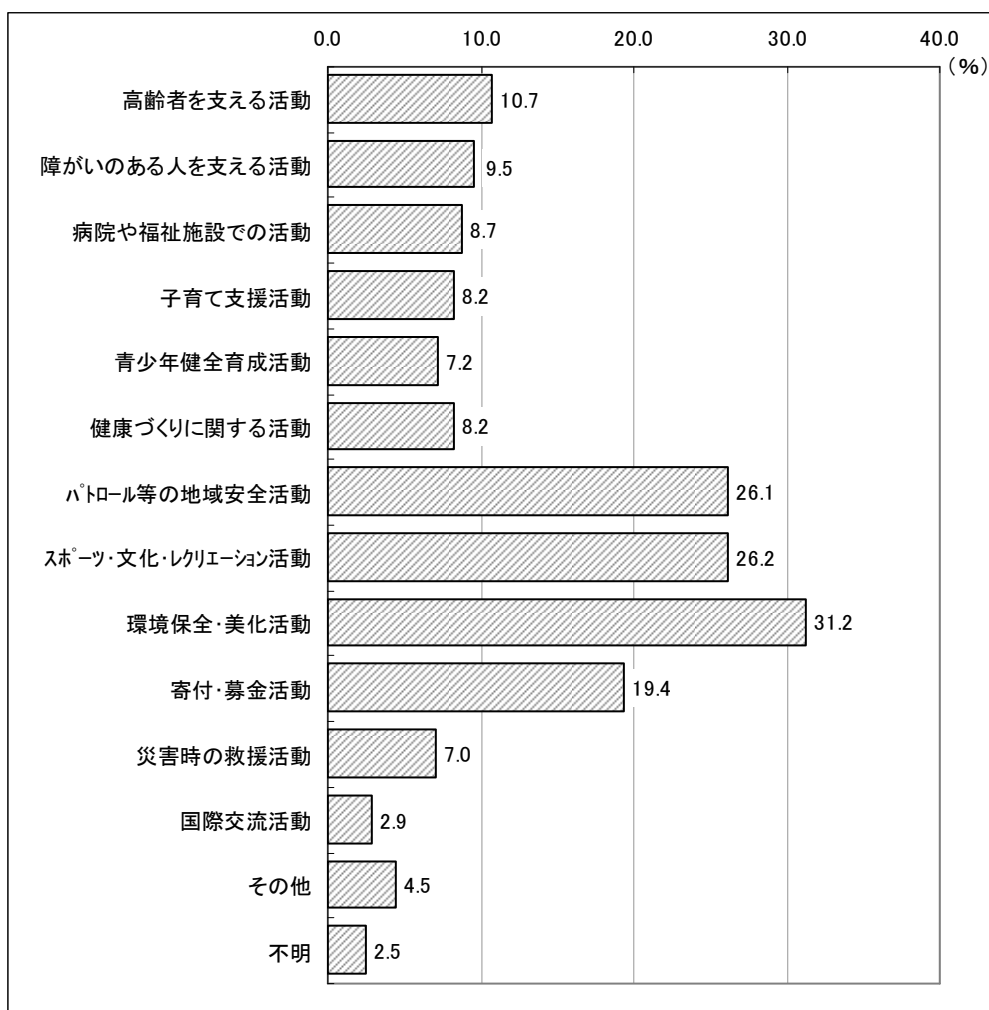
図表－ 16 ボランティア活動への参加経験 (n=1,639)



Q16-2 参加したボランティア活動・行事

参加したことのある人に参加したボランティア活動・行事についてきいたところ、「環境保全・美化活動」が31.2%と最も高く、次いで「スポーツ・文化・レクリエーション活動」(26.2%)、「パトロール等の地域安全活動」(26.1%)となっています。

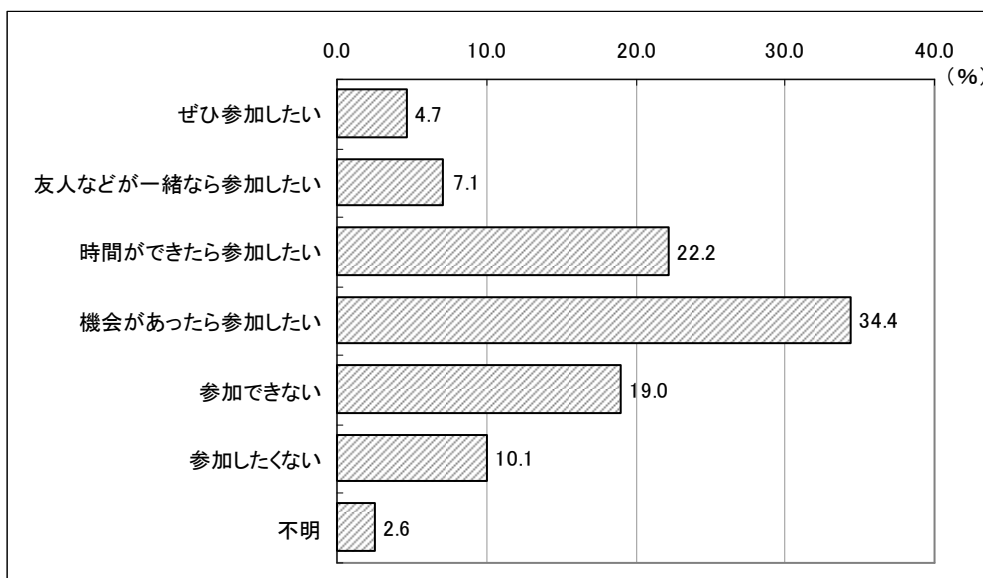
図表－ 17 参加したボランティア活動・行事(複数回答) (n=682)



Q17 今後のボランティア活動への参加意向

今後のボランティア活動への参加意向についてきいたところ、「機会があったら参加したい」が34.4%と最も高く、次いで「時間ができたら参加したい」(22.2%)となっています。一方、「参加できない」が19.0%、「参加したくない」が10.1%となっています。

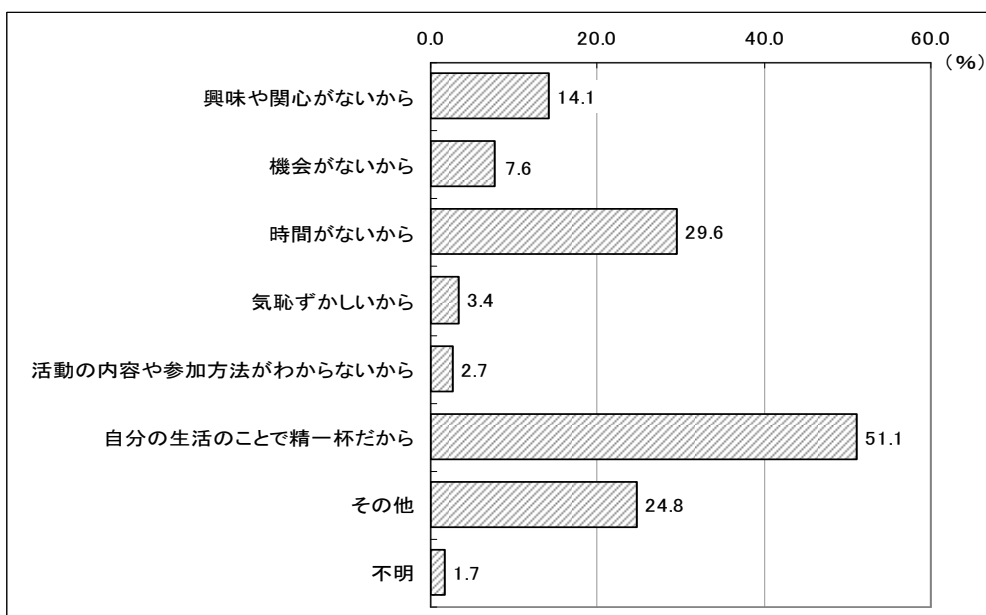
図表－ 18 今後のボランティア活動への参加意向 (n=1,639)



Q17-2 ボランティア活動に参加したくない理由

ボランティア活動に参加したくないと回答した人にその理由をきいたところ、半数が「自分の生活のことで精一杯だから」(51.1%)と最も高く、次いで「時間がないから」(29.6%)となっています。

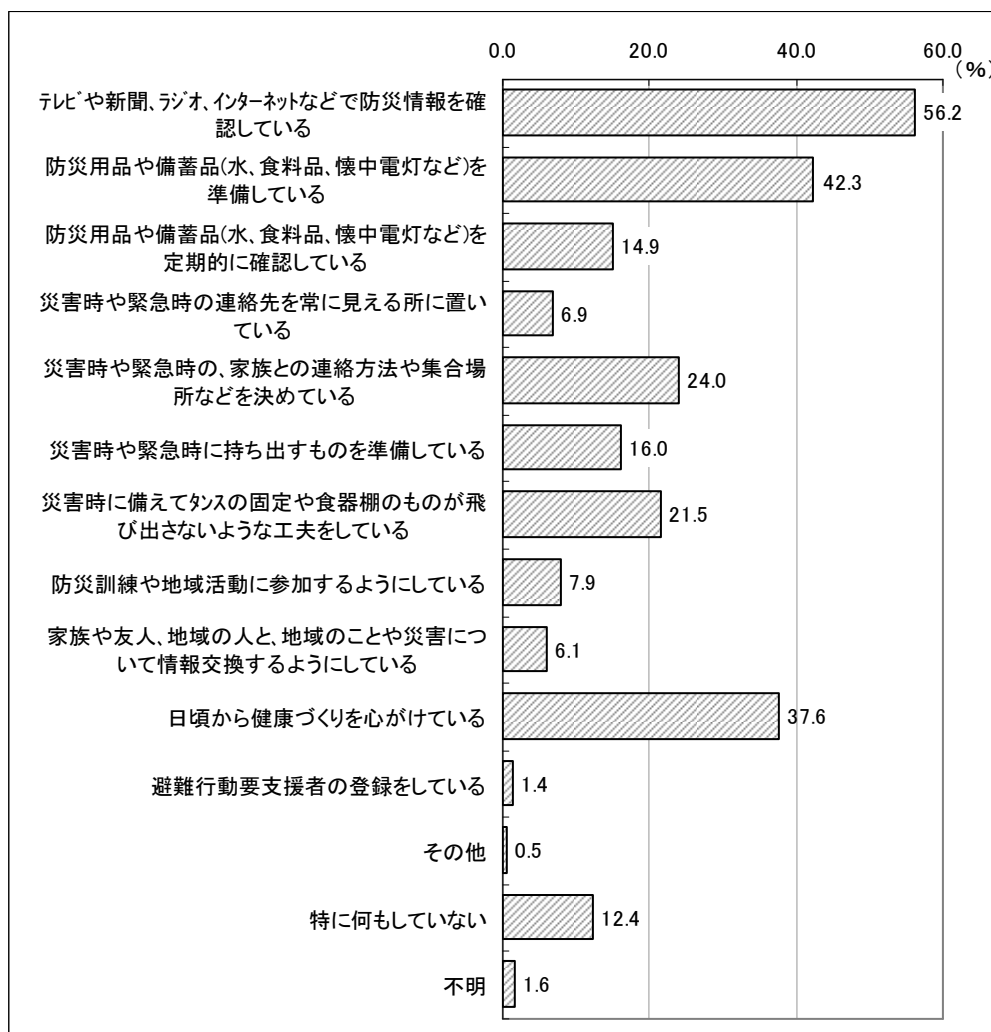
図表－ 19 ボランティア活動に参加したくない理由(複数回答) (n=476)



Q18 行っている自助活動

現在行っている自助活動についてきいたところ、「テレビや新聞、ラジオ、インターネットなどで防災情報を確認している」が56.2%と最も高く、次いで「防災用品や備蓄品(水、食料品、懐中電灯など)を準備している」(42.3%)、「日頃から健康づくりを心がけている」(37.6%)となっています。一方、「特に何もしていない」人も12.4%います。

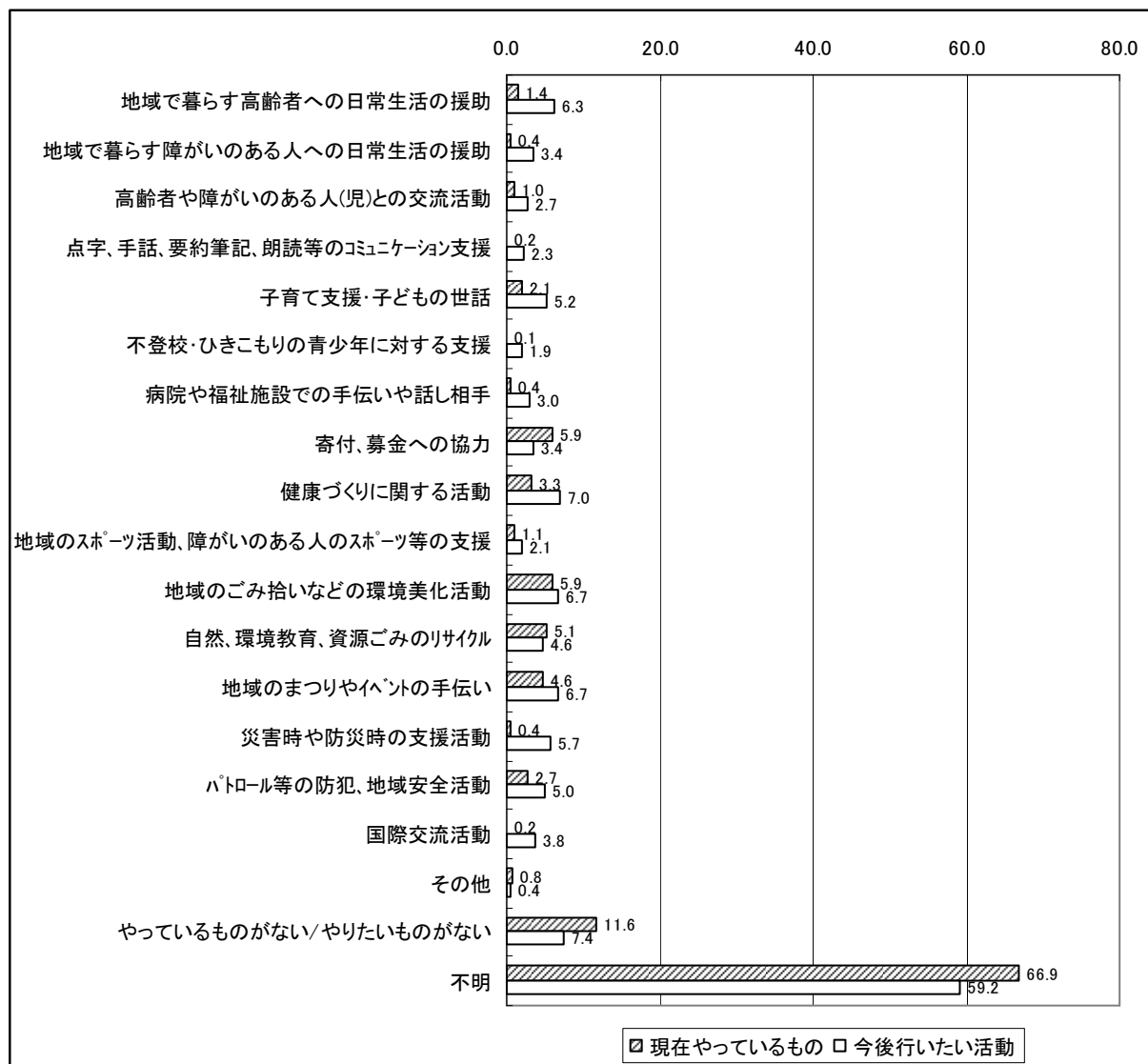
図表－ 20 行っている自助活動(複数回答) (n=1,639)



Q19 現在行っている活動、今後行いたい活動

現在行っている活動、今後行いたい活動についてきいたところ、現在行っているものとしては「寄付、募金への協力」、「地域のごみ広いなどの環境美化活動」「自然、環境教育、資源ごみのリサイクル」をあげる人の割合が比較的高くなっています。また、今後行いたい活動としては、「健康づくりに関する活動」、「地域で暮らす高齢者への日常生活の援助」、「地域のごみ拾いなどの環境美化活動」、「地域のまつりやイベントの手伝い」をあげる人の割合が比較的高くなっています。

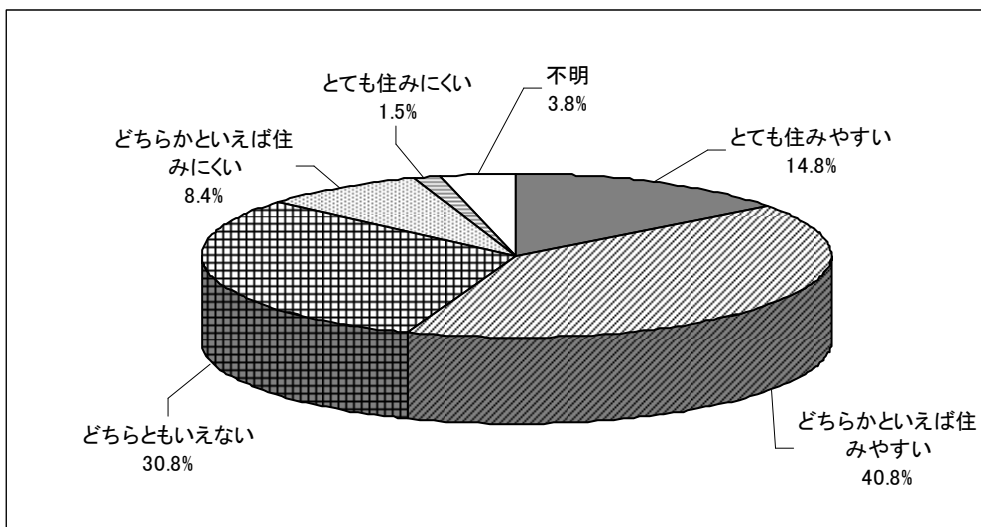
図表－ 21 現在行っている活動、今後行いたい活動(複数回答) (n=1,639)



Q20 住んでいる地域の住みやすさ

住んでいる地域の住みやすさについてきいたところ、「住みやすい」が55.6%（「とても住みやすい」(14.8%)と「どちらかといえば住みやすい」(40.8%)の合計)、「どちらともいえない」が30.8%、「住みにくい」が9.9%（「どちらかといえば住みにくい」(8.4%)と「とても住みにくい」(1.5%)の合計）となっています。

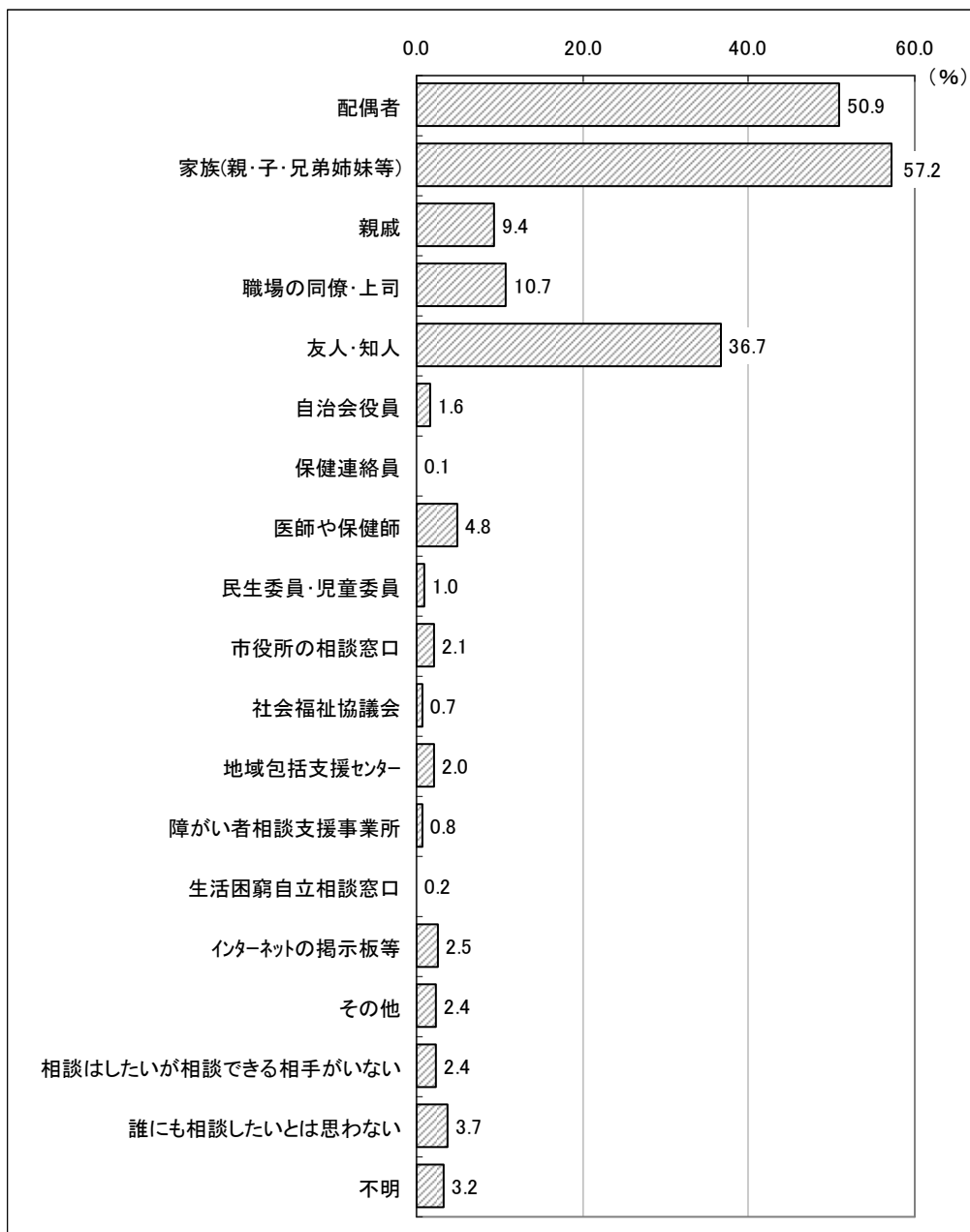
図表－ 22 住んでいる地域の住みやすさ (n=1,639)



Q21 日常生活の困りごと・悩みごとを相談する人物

日常生活の困りごと・悩みごとを相談する人についてきいたところ、「家族(親・子・兄弟姉妹等)」が 57.2%と最も高く、次いで「配偶者」(50.9%)、「友人・知人」(36.7%) となっています。専門的な機関に相談する人は比較的低くなっています。

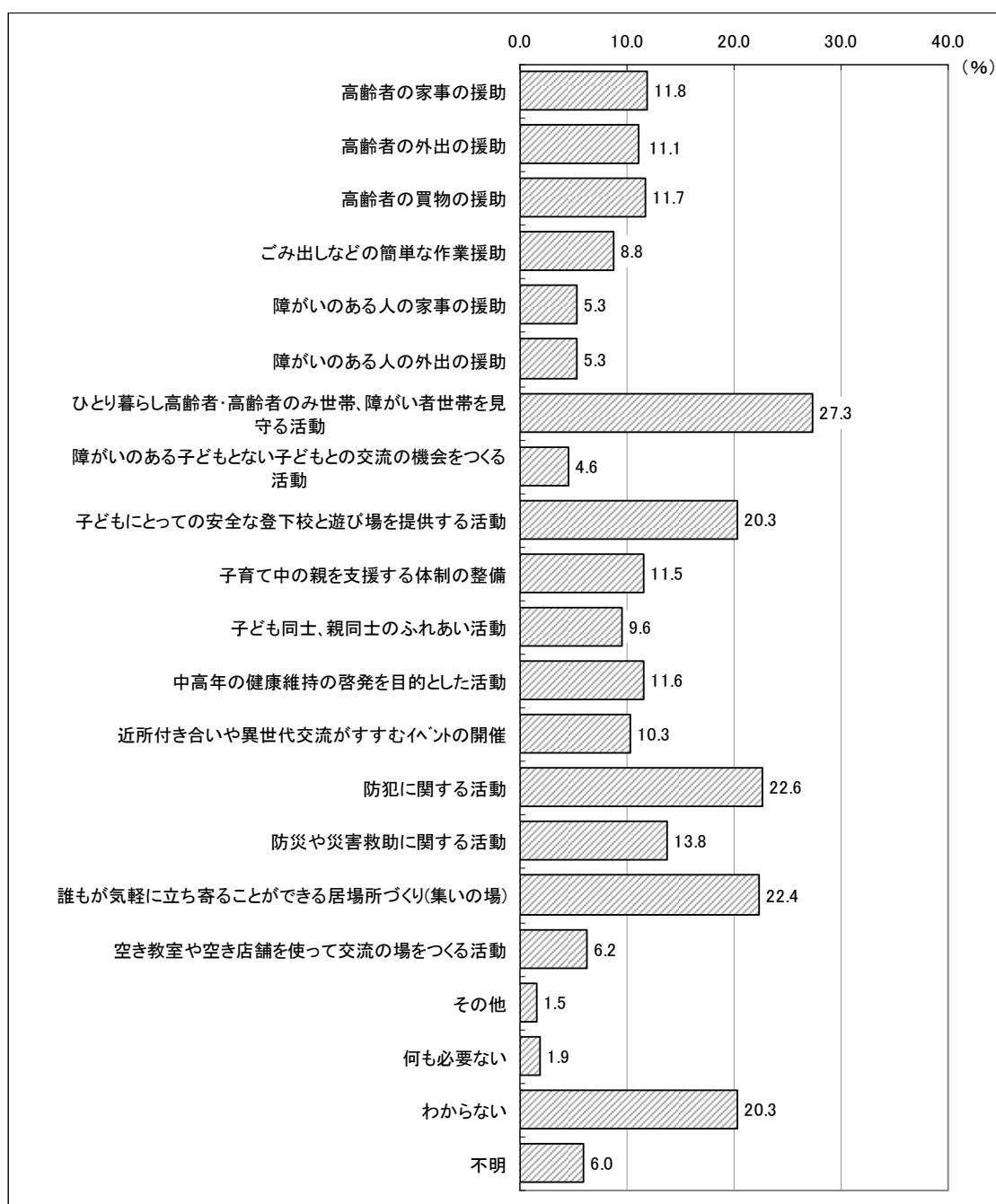
図表ー 23 日常生活の困りごと・悩みごとを相談する人物(複数回答) (n=1,639)



Q22 住んでいる地域に必要な活動

住んでいる地域に必要な活動についてきいたところ、「ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯、障がい者世帯を見守る活動」が 27.3%と最も高く、次いで「防犯に関する活動」(22.6%)、「誰もが気軽に立ち寄ることができる居場所づくり(集いの場)」(22.4%)、「子どもにとっての安全な登下校と遊び場を提供する活動」(20.3%) となっています。

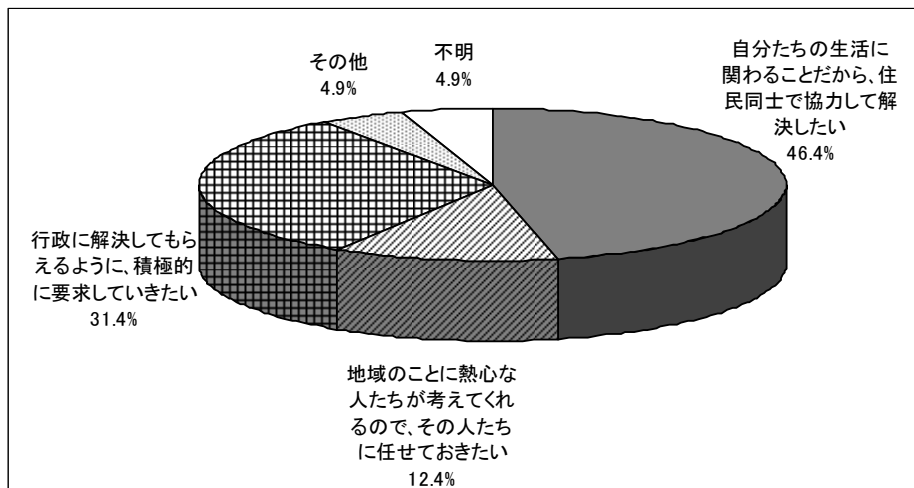
図表ー 24 住んでいる地域に必要な活動(複数回答) (n=1,639)



Q23 問題や困りごとが生じた場合の解決方法

問題や困りごとが生じた場合の解決方法についてきいたところ、「自分たちの生活に関わることから、住民同士で協力して解決したい」が 46.4%と最も高く、次いで「行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい」(31.4%) となっています。

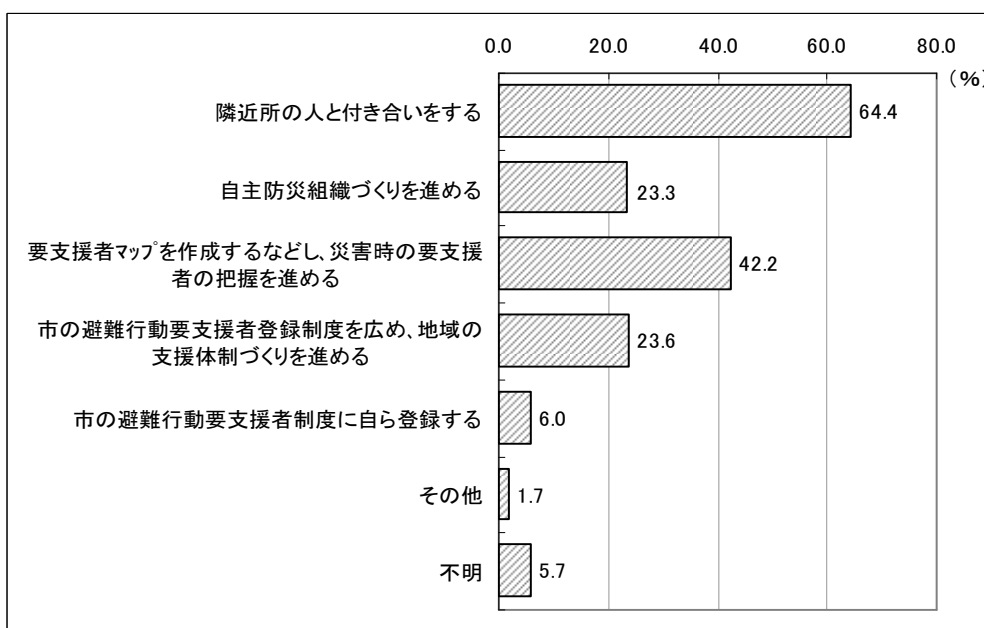
図表－ 25 問題や困りごとが生じた場合の解決方法 (n=1,639)



Q24 支援しやすい環境とするために必要な取り組み

支援しやすい環境とするために必要な取り組みについてきいたところ、「隣近所の人と付き合いをする」が 64.4%と最も高く、次いで「要支援者マップを作成するなどし、災害時の要支援者の把握を進める」(42.2%)、「市の避難行動要支援者登録制度を広め、地域の支援体制づくりを進める」(23.6%)、「自主防災組織づくりを進める」(23.3%) となっています。

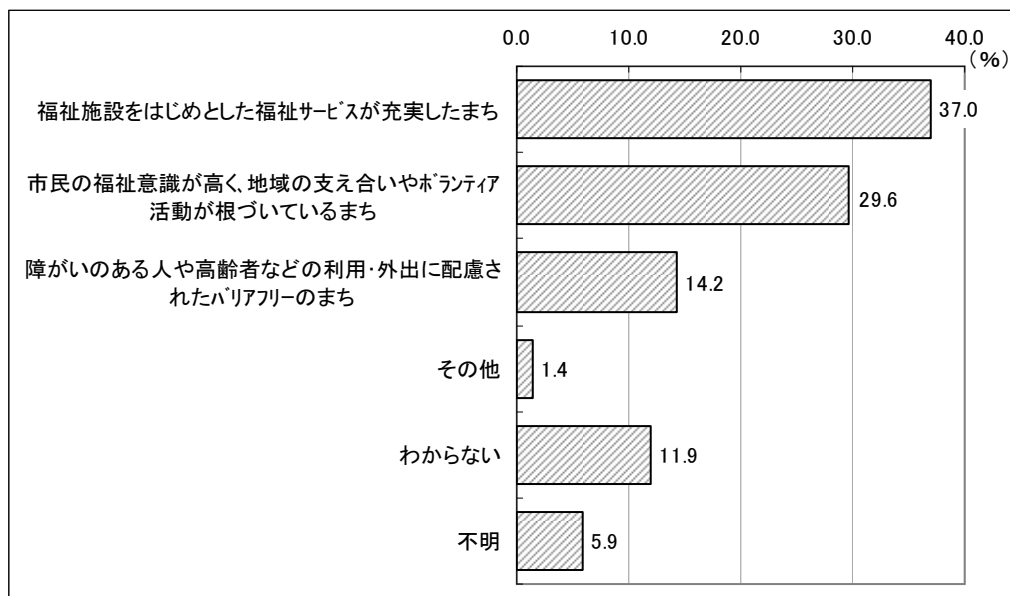
図表－ 26 支援しやすい環境とするために必要な取り組み(複数回答) (n=1,639)



Q25 「福祉のまち」として小牧市がめざすべきまち

「福祉のまち」として小牧市がめざすべきまちについてきいたところ、「福祉施設をはじめとした福祉サービスが充実したまち」が37.0%と最も高く、次いで「市民の福祉意識が高く、地域の支え合いやボランティア活動が根づいているまち」(29.6%)となっています。

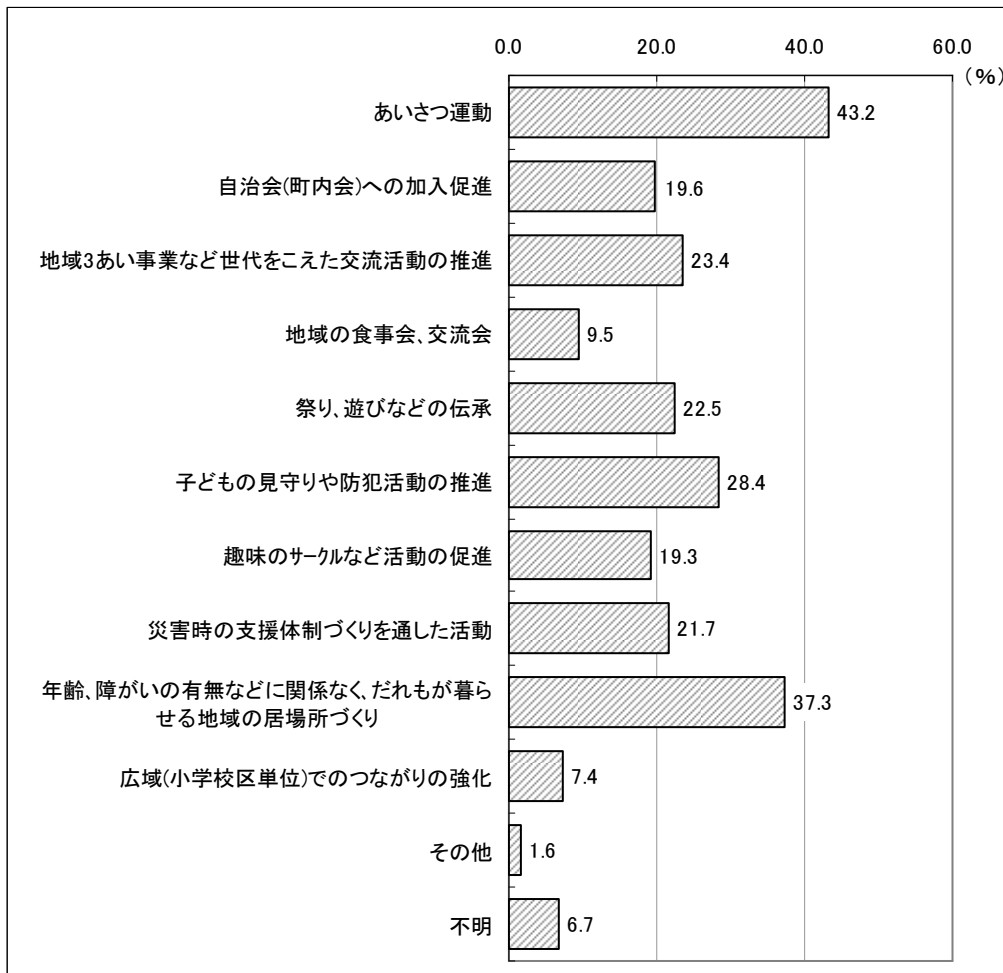
図表－ 27 「福祉のまち」として小牧市がめざすべきまち (n=1,639)



Q26 新たな地域のつながりを築くために進めるべき取り組み

新たな地域のつながりを築くために進めるべき取り組みについてきいたところ、「あいさつ運動」が43.2%と最も高く、次いで「年齢、障がいの有無などに関係なく、だれもが暮らせる地域の居場所づくり」(37.3%)、「子どもの見守りや防犯活動の推進」(28.4%)となっています。

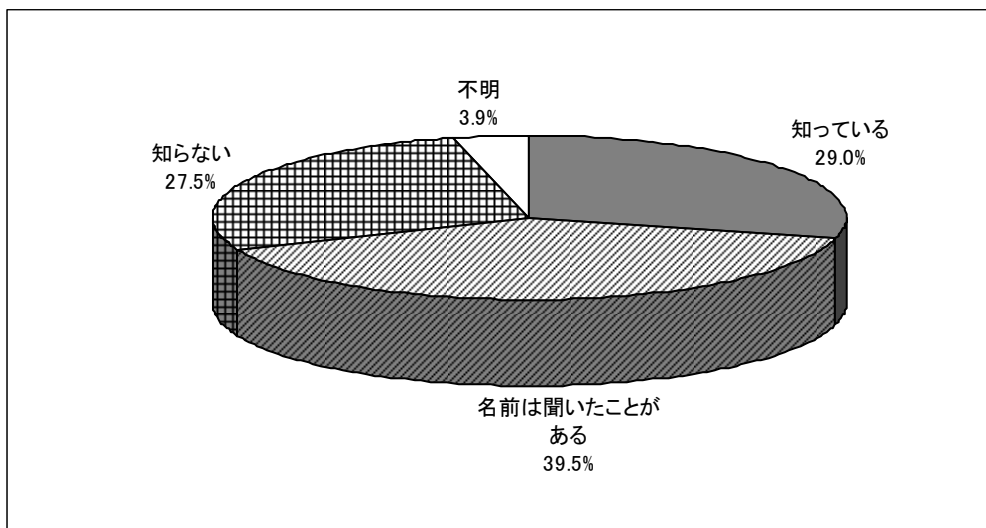
図表－ 28 新たな地域のつながりを築くために進めるべき取り組み(複数回答) (n=1,639)



Q27 小牧市社会福祉協議会の認知

小牧市社会福祉協議会を知っているかきいたところ、「知っている」が29.0%、「名前は聞いたことがある」39.5%、「知らない」が27.5%となっています。

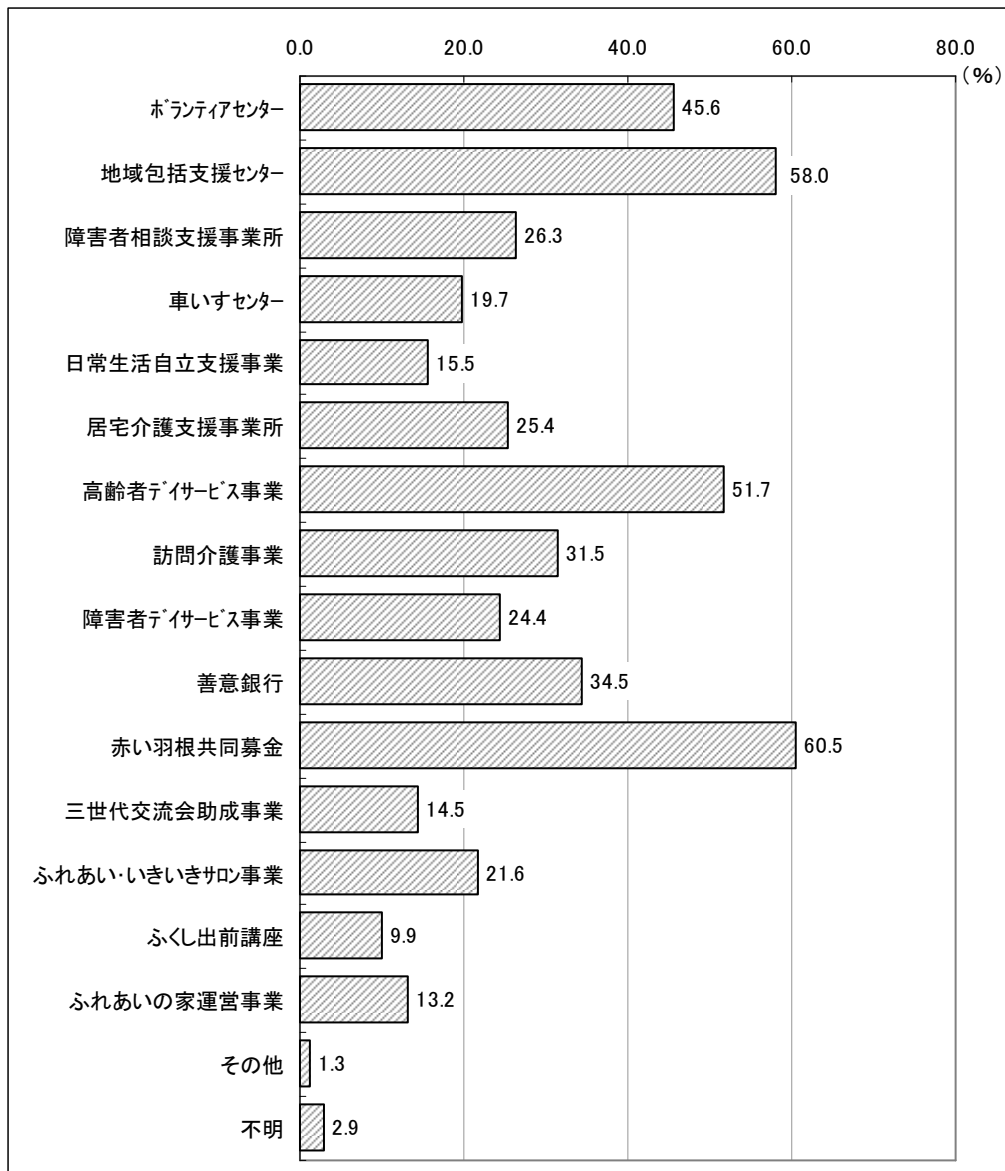
図表－ 29 小牧市社会福祉協議会の認知 (n=1,639)



Q27-2 小牧市社会福祉協議会の機関や事業で知っているもの

小牧市社会福祉協議会を知っている人に、小牧市社会福祉協議会の機関や事業で知っているものについてきいたところ、「赤い羽根共同基金」(60.5%)、「地域包括支援センター」(58.0%)、「高齢者デイサービス事業」(51.7%)が上位にあがっています。

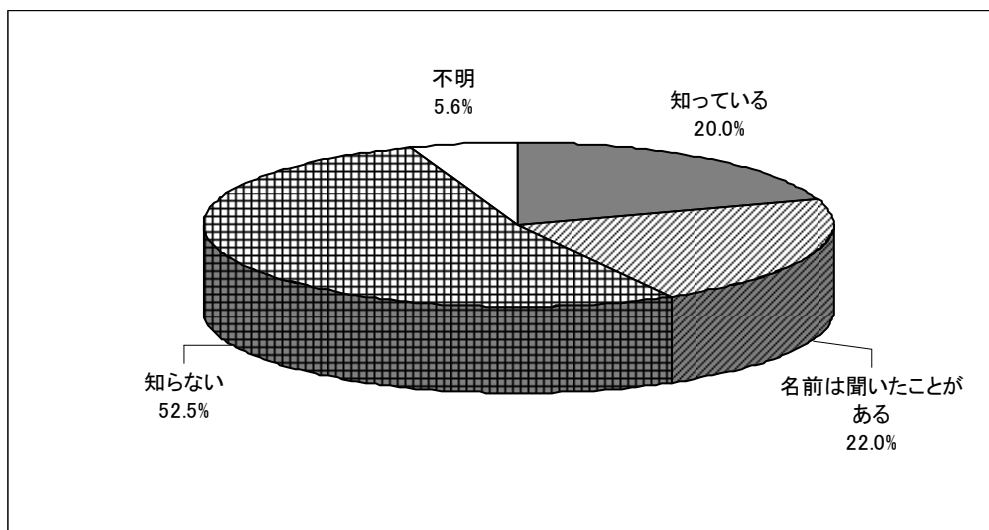
図表－ 30 小牧市社会福祉協議会の機関や事業で知っているもの(複数回答) (n=1,639)



Q28 地域包括支援センターの認知

地域包括支援センターを知っているかきいたところ、「知っている」が20.0%、「名前は聞いたことがある」22.0%、「知らない」が52.5%となっています。

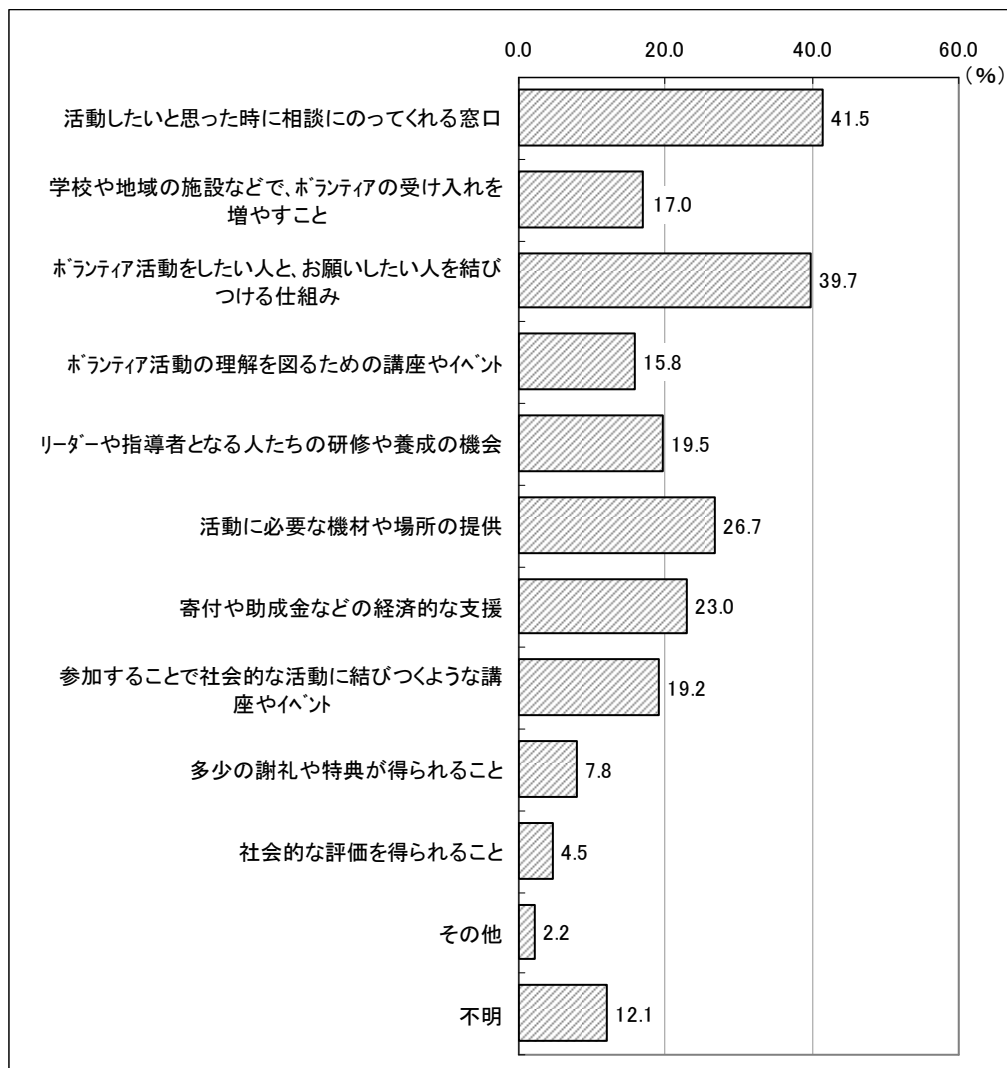
図表－ 31 地域包括支援センターの認知 (n=1,639)



Q29 災害時も含めた地域活動をするうえで行政にしてほしいこと

災害時も含めた地域活動をするうえで行政にしてほしいことについてきいたところ、「活動したいと思った時に相談にのってくれる窓口」が41.5%と最も高く、次いで「ボランティア活動をしたい人と、お願いしたい人を結びつける仕組み」(39.7%)となっています。

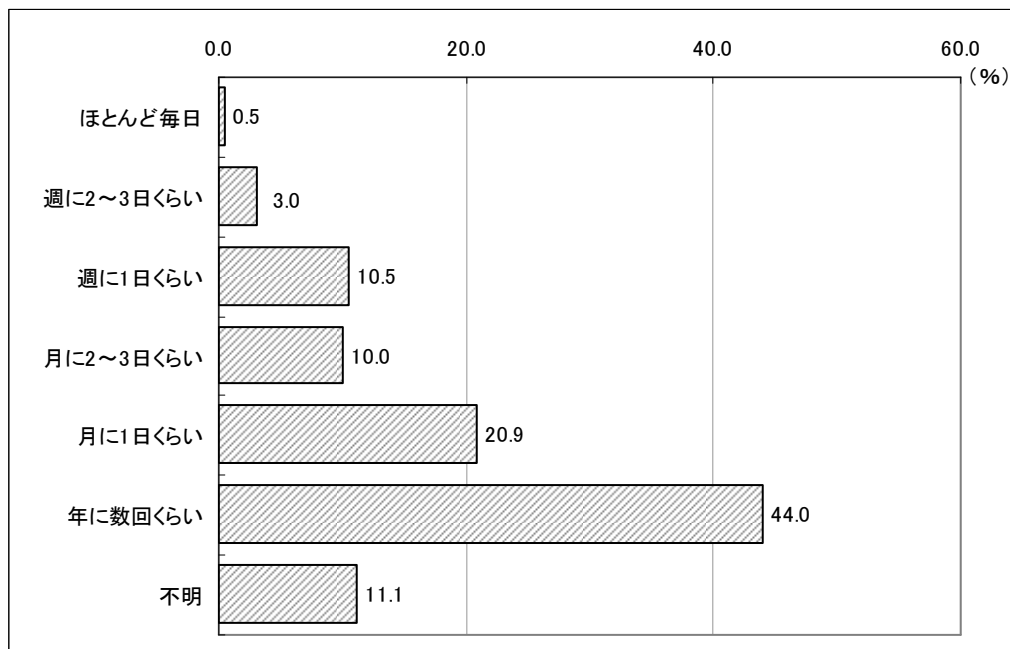
図表一 32 災害時も含めた地域活動をするうえで行政にしてほしいこと(複数回答) (n=1,639)



Q30 地域の活動に割くことのできる時間

地域の活動に割くことのできる時間についてきいたところ、「年に数回くらい」が 44.0%と最も高く、次いで「月に1日くらい」(20.9%)、「週に1日くらい」(10.5%)、「月に2～3日くらい」(10.0%) となっています。

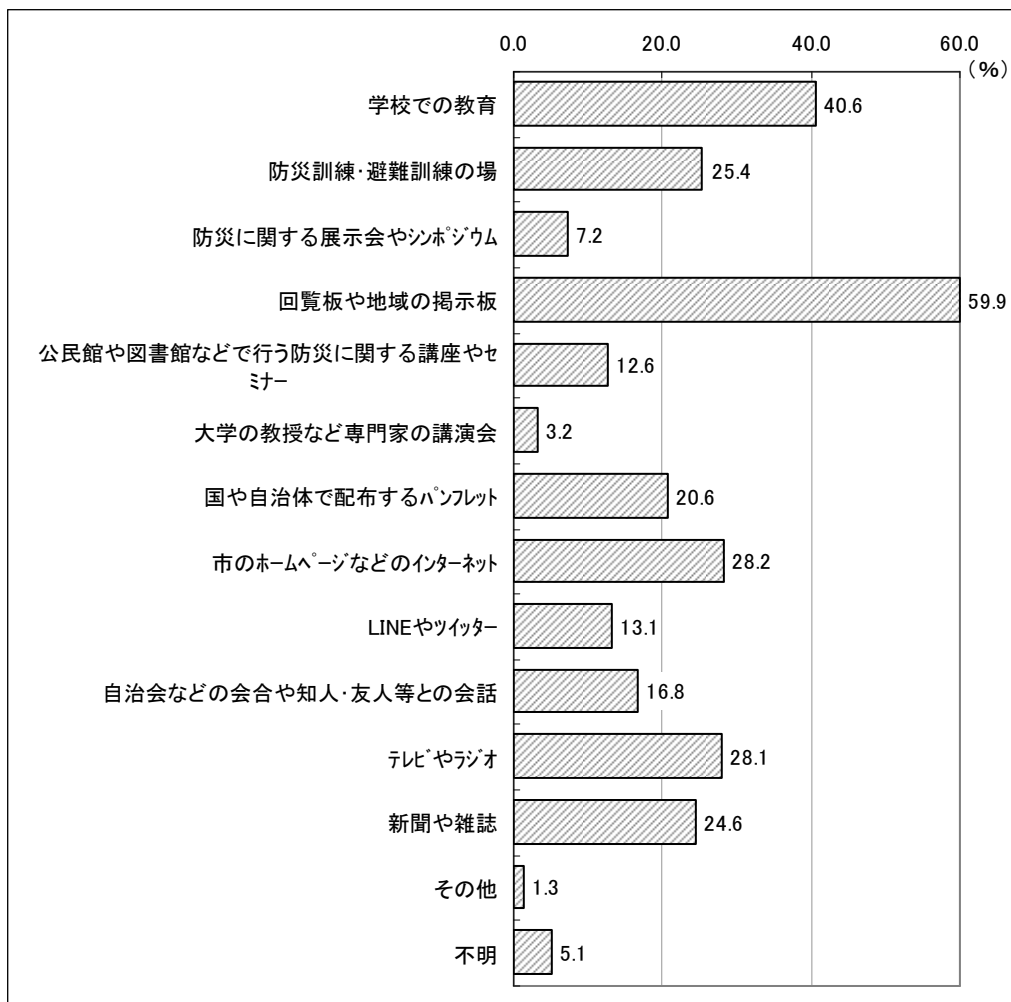
図表一 33 地域の活動に割くことのできる時間 (n=1,639)



Q31 地域情報等について希望する提供方法

地域情報等について希望する提供方法についてきいたところ、「回覧板や地域の掲示版」が 59.9% と最も高く、次いで「学校での教育」(40.6%) となっています。

図表一 34 地域情報等について希望する提供方法(複数回答) (n=1,639)

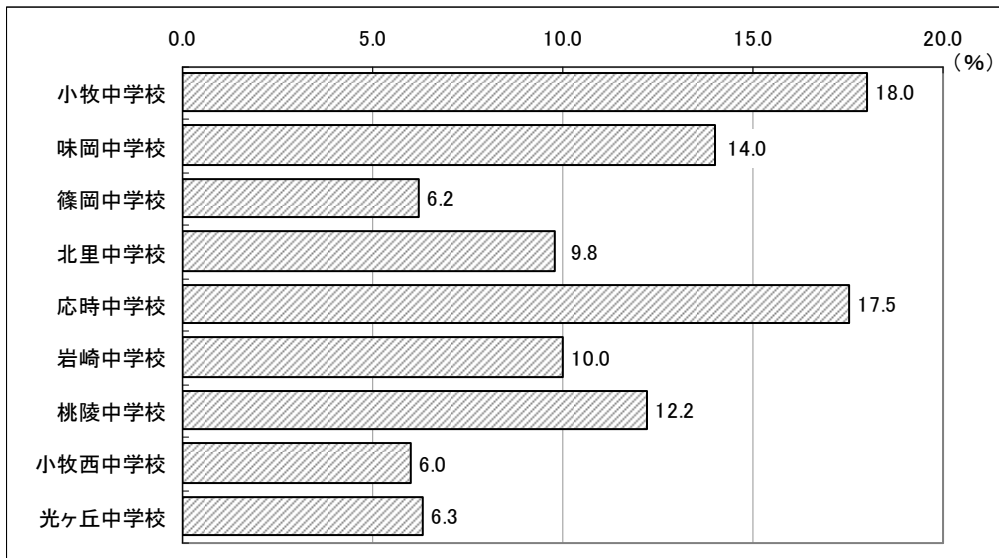


中学生

回答者の中学校

回答者の中学校、「小牧中学校」が 18.0%と最も高く、次いで「応時中学校」(17.5%) となっています。

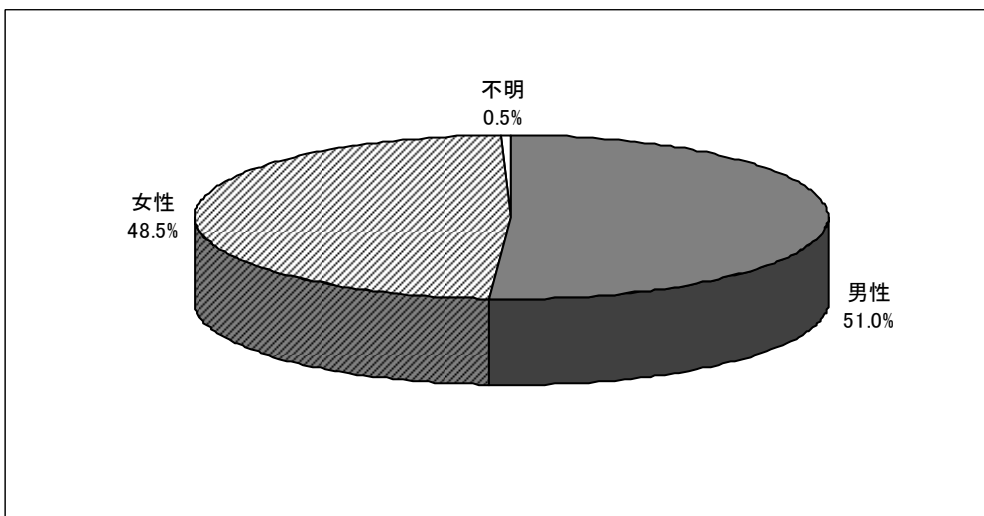
図表－ 35 回答者の中学校 (n=1,414)



Q1 性別

性別については、「男性」が 51.0%、「女性」が 48.5%となっています。

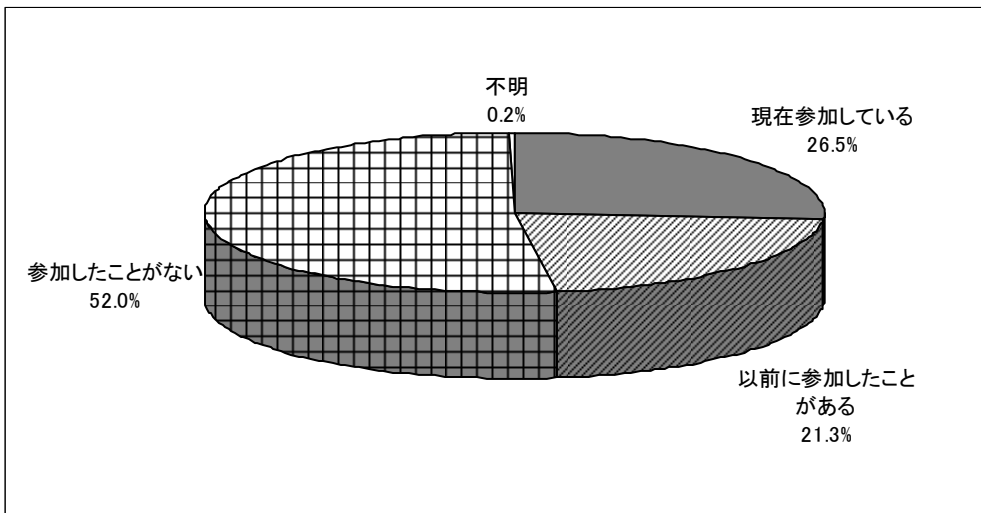
図表－ 36 性別 (n=1,414)



Q2 ボランティア活動に参加経験の有無

ボランティア活動に参加経験の有無については、「現在参加している」が26.5%、「以前参加したことがある」が21.3%、「参加したことがない」が52.0%となっています。

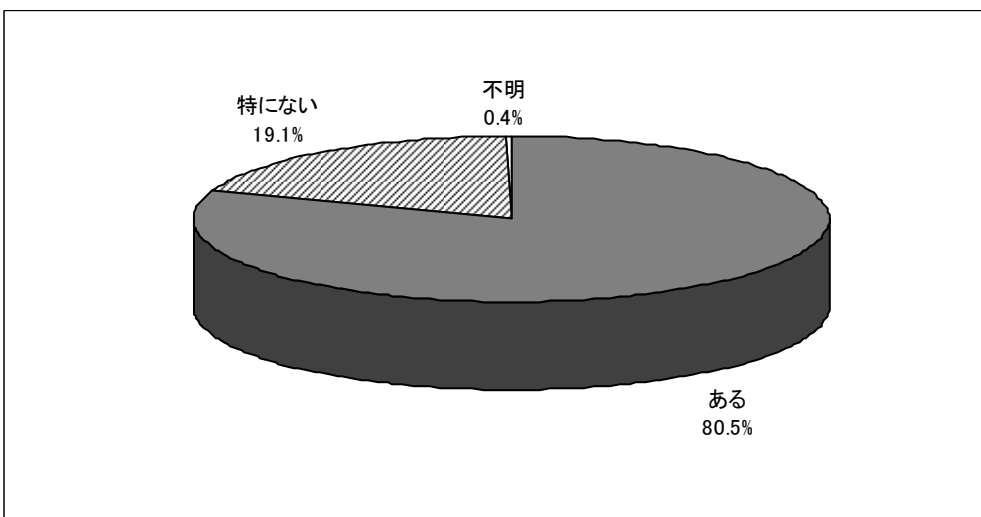
図表－ 37 ボランティア活動に参加経験の有無 (n=1,414)



Q3 ボランティア活動に参加してよかったこと、楽しかったことの有無

ボランティア活動に参加したことがある人に、参加してよかったこと、楽しかったことがあるかきいたところ、「ある」が80.5%、「特にない」が19.1%となっています。

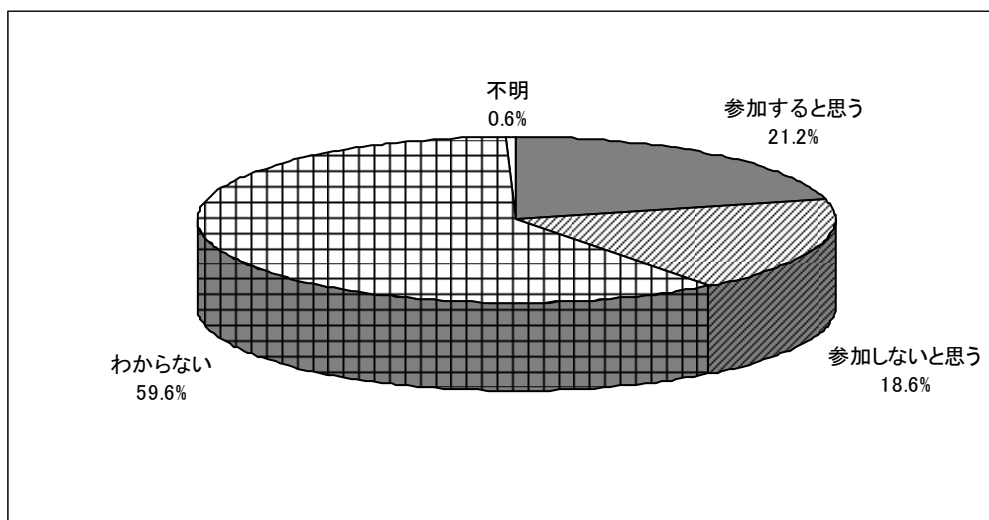
図表－ 38 ボランティア活動に参加してよかったこと、楽しかったことの有無 (n=676)



Q4 中学校卒業後のボランティア活動への参加意向

ボランティア活動に参加したことがある人に、中学校卒業後にボランティア活動へ参加したいかきいたところ、「参加すると思う」が21.2%、「参加しないと思う」が18.6%、「わからない」が59.6%となっています。

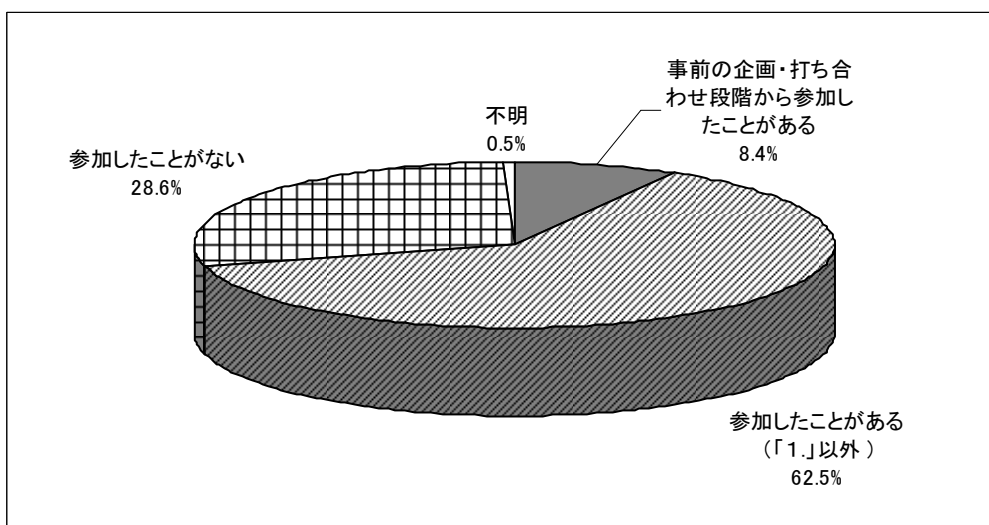
図表一 39 中学校卒業後のボランティア活動への参加意向 (n=676)



Q5 盆踊りやお祭りなどの地域の行事に参加経験の有無

盆踊りやお祭りなどの地域の行事に参加経験の有無についてきいたところ、「事前の企画・打ち合わせ段階から参加したことがある」が8.4%、「参加したことがある(「1」以外)」が62.5%、「参加したことがない」が28.6%となっています。

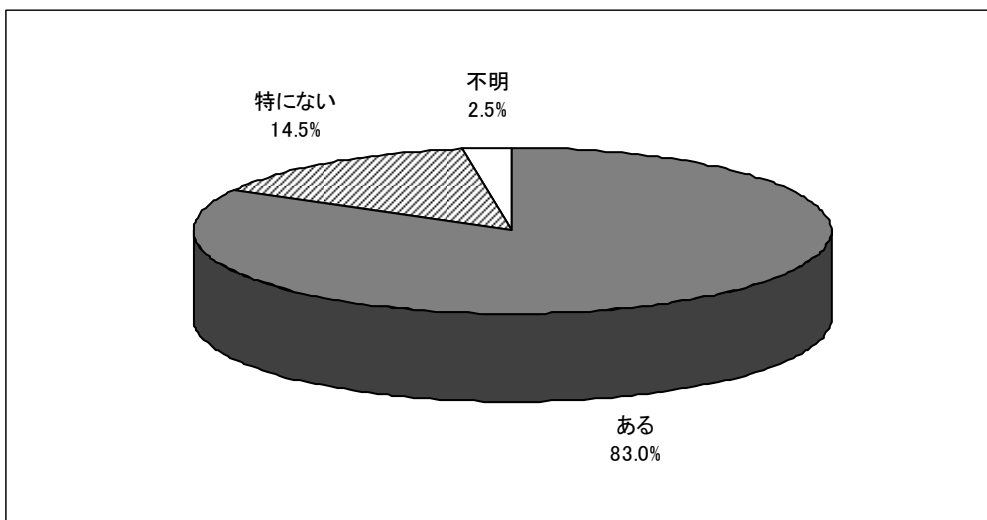
図表一 40 盆踊りやお祭りなどの地域の行事に参加経験の有無 (n=1,414)



Q6 地域行事に参加してよかったと思ったこと、楽しかったことの有無

盆踊りやお祭りなどの地域の行事に参加した人に参加してよかったこと、楽しかったことがあるかきいたところ、「ある」が83.0%、「特にない」が14.5%となっています。

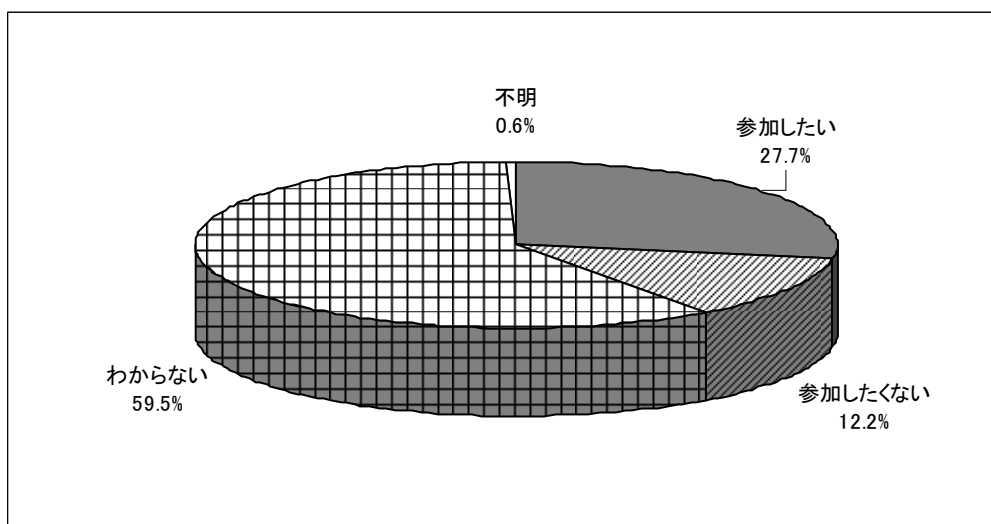
図表－ 41 地域行事に参加してよかったと思ったこと、楽しかったことの有無 (n=1,002)



Q7 今後の福祉体験活動や地域の活動への参加意向

今後の福祉体験活動や地域の活動への参加意向についてきいたところ、「参加したい」が27.7%、「参加したくない」が12.2%、「わからない」が59.5%となっています。

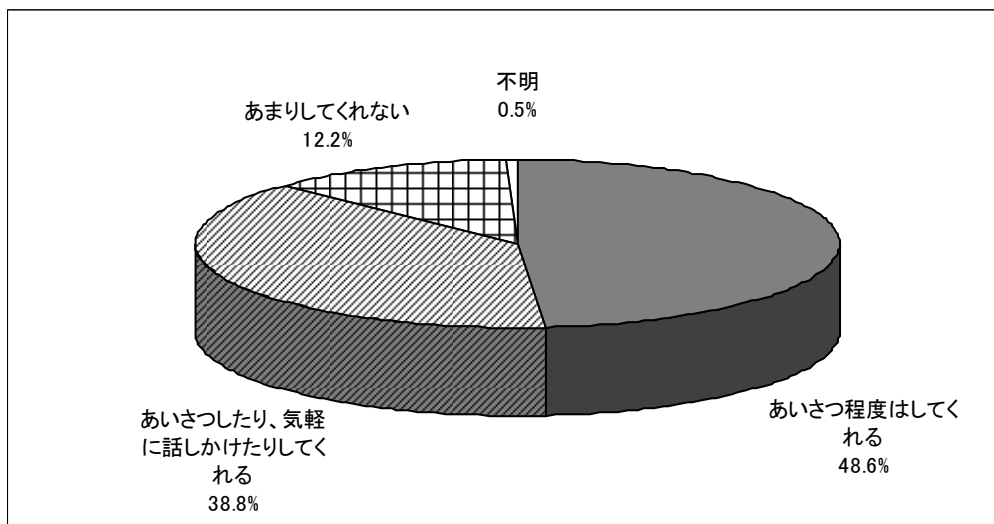
図表－ 42 今後の福祉体験活動や地域の活動への参加意向 (n=1,414)



Q8 近所の人とのかかわり

近所の人とのかかわりについてきいたところ、「あいさつ程度はしてくれる」が48.6%、「あいさつしたり、気軽に話しかけたりしてくれる」が38.8%、「あまりしてくれない」が12.2%となっています。

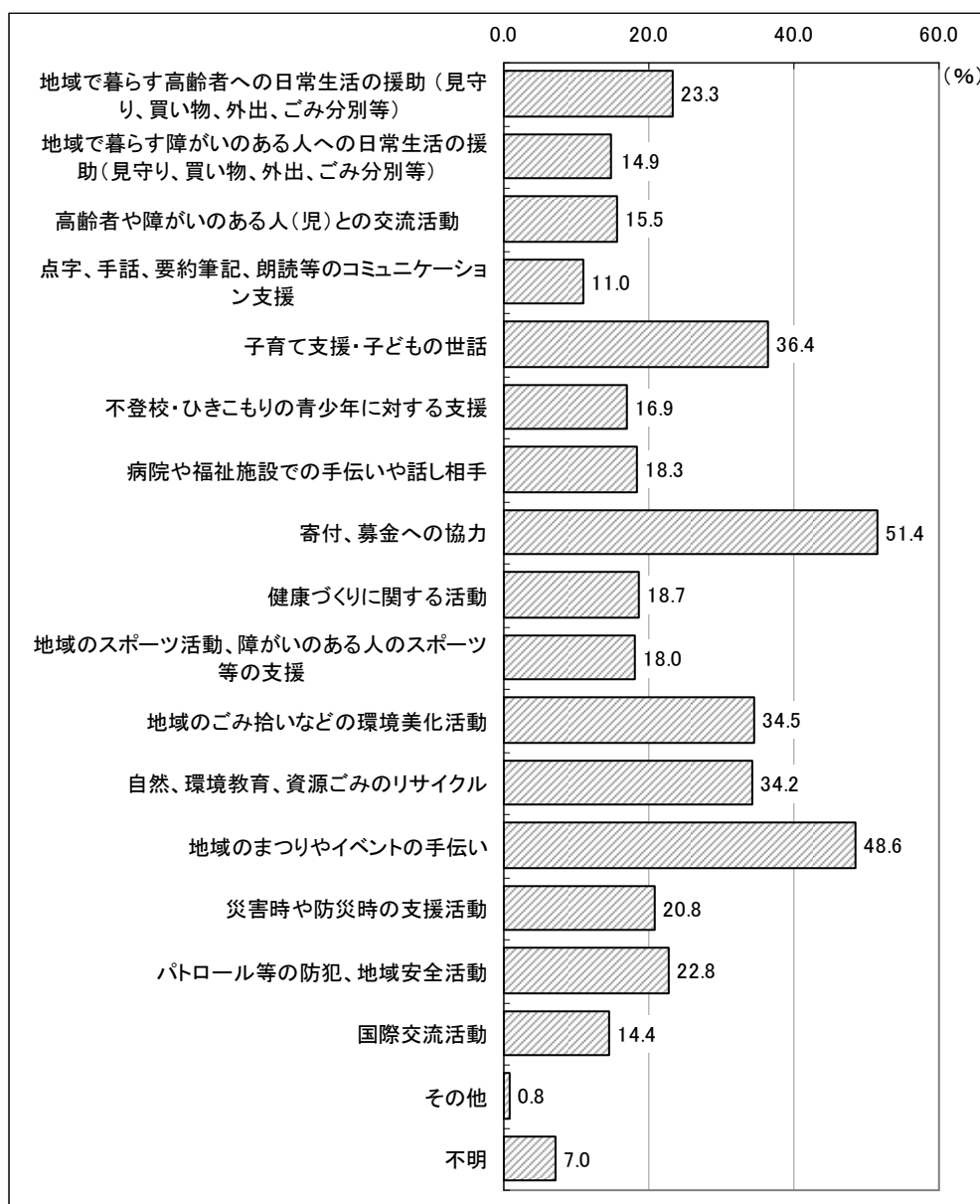
図表－ 43 近所の人とのかかわり (n=1,414)



Q9 地域活動でやってみたいこと

地域活動でやってみたいことについてきいたところ、「寄付、募金への協力」が 51.4%と最も高く、次いで「地域のまつりやイベントの手伝い」(48.6%)、「子育て支援・子どもの世話」(36.4%)、「地域のごみ拾いなどの環境美化活動」(34.5%)、「自然、環境教育、資源ごみのリサイクル」(34.2%)となっています。

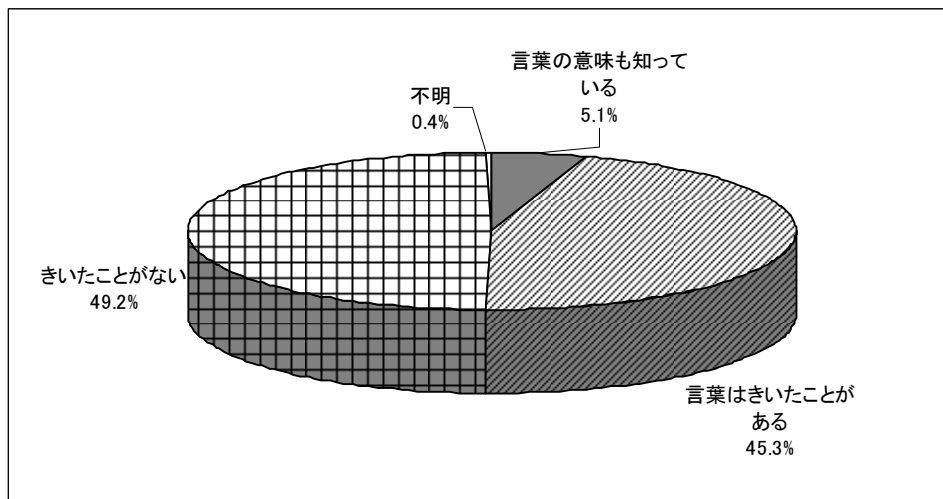
図表－ 44 地域活動でやってみたいこと(複数回答) (n=1,414)



Q10 「自助」「共助」「公助」についての認知度

「自助」「共助」「公助」の言葉を知っているかきいたところ、「言葉の意味も知っている」が5.1%、「言葉はきいたことがある」が45.3%、「きいたことがない」が49.2%となっています。

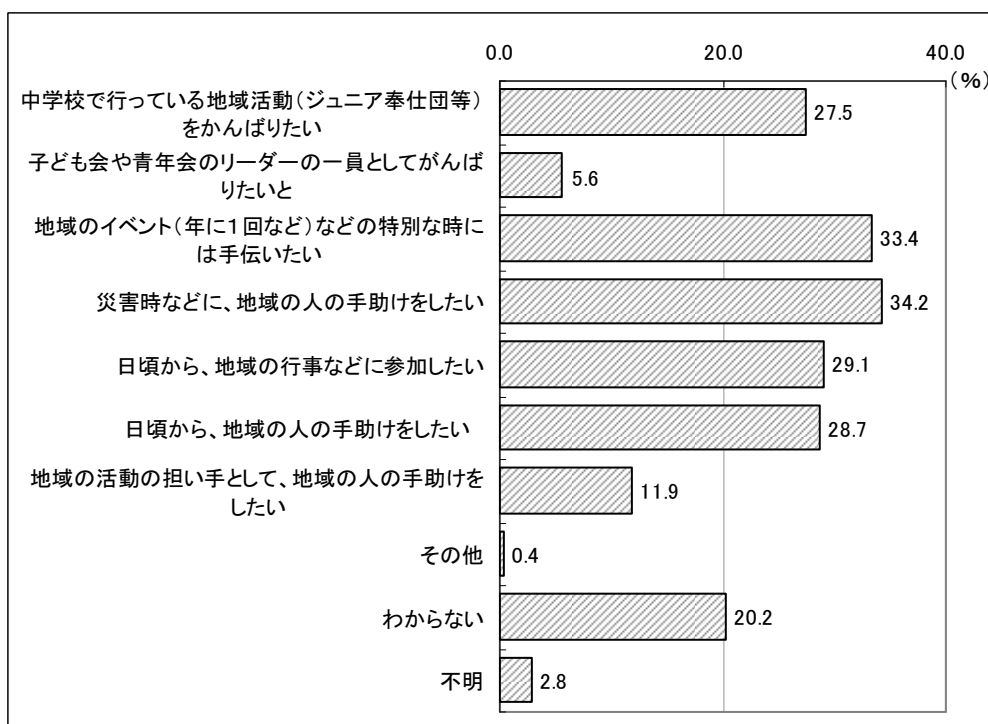
図表－ 45 「自助」「共助」「公助」についての認知度 (n=1,414)



Q11 日頃生活している中で、地域の一員としてのあり方

日頃生活している中で、地域の一員としてのあり方についてきいたところ、「災害時などに、地域の人の手助けをしたい」(34.2%)、「地域のイベント(年に1回など)などの特別な時には手伝いたい」(33.4%)が上位にあがっています。

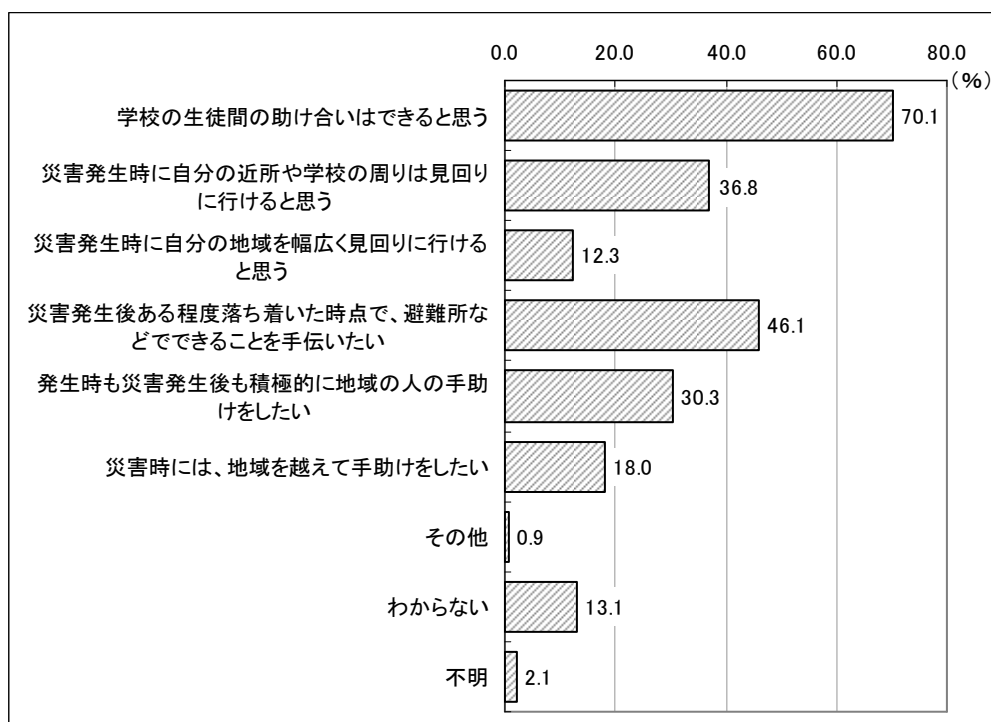
図表－ 46 日頃生活している中で、地域の一員としてのあり方(複数回答) (n=1,414)



Q12 災害時に地域の一員としてできること

災害時に地域の一員としてできることについてきいたところ、「学校の生徒間の助け合いはできると思う」が70.1%と最も高く、次いで「災害発生後ある程度落ち着いた時点で、避難所などでできることを手伝いたい」(46.1%)、「災害発生時に自分の近所や学校の周りを見回りに行けると思う」(36.8%)となっています。

図表－ 47 災害時に地域の一員としてできること(複数回答) (n=1,414)



Q13 地域活動が行える時

地域活動が行える時についてきいたところ、「イベントやお祭りなどのときには手伝いたい」が51.5%と最も高く、次いで「災害時など緊急のときに手伝いたい」(33.2%)、「夏休みなど長期休暇中であれば手伝いたい」(32.3%)となっています。

図表－ 48 地域活動が行える時(複数回答) (n=1,414)

